筑波大学新聞

第284号
編集責任
筑波大学新聞
編集代表
荻野祥三
TEL:
029(853)2040・6699
E-mail
shinbun@
sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月　刊

発　行　所
筑　波　大　学
茨城県つくば市
天王台1－1－1

筑波大へようこそ！

2220人 春満開

期待を胸にキャンパスへ
授業開始は12日から

平成22年度入学式は、4月7日大学会館講堂で午前中2回に分けて行う。第1回は9時半、第2回は11時半開始となっている。午後2時からは大学院の入学式を行う。桜前線の訪れとともに、学類・専門学群で2220人、大学院で2511人の新入生を迎える。

学群新入生は8、9日に、また大学院新入生は7日にオリエンテーションを受ける。新学期の授業開始は12日からとなる。

（5―9面に学類・専門学群の入学者名簿）

先月６日の合格発表では、まだ肌寒く雨の降りそうな天気の中、午前10時の発表に合わせ、多くの学生が集まった。（撮影・筑波大学新聞編集部員）

紙面から

ナイスステップな研究者　渡邉教授が受賞　2
MTGF　コピーライター一倉氏講演　3
反射鏡　私のおすすめスポット　14
ダンス公演　卒業生思い出胸に舞う　15
グランドスラム　小野・緒方が優勝　16
スカラシップ　独自の奨学金創設　19
つくばMAP　10,11
付録　大学周辺の地図
特集　12,13
今日からあなたも国際人!!
Let's study 外国語

筑波大学基金

学生に経済的支援
寄附金募集始まる

TSUKUBA FUTURESHIP
筑波大学基金はじまる!
https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp

本学は学生への経済的支援などを目的とした基金、「筑波大学基金 TSUKUBA FUTURESHIP」を設置し、今月1日から寄附金の募集を始めた。

基金は、学生が安心して教育研究活動や課外活動に打ち込む環境を整えることを目的としている。寄附金は、学生への経済的支援や課外活動の支援に使用されるという。また、期間を限定し、本学の特別事業である嘉納治五郎記念事業への寄附も募集する。

本学では基金の目標額を、一般事業向けに100億円、特別事業向けに800万円としている。

基金に賛同する個人、法人、その他団体などが募金の対象者。寄附金額は1000円から。

問い合わせ＝029・853・2178、futureship@un.tsukuba.ac.jp

ホームページ＝https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp

医学系棟新設

日本医療の課題を研究
人材育成分野に活用も

医学系棟敷地内に、新棟「地域医療・健康科学イノベーションセンター棟」が建設される。少子高齢化への対応や地域医療の向上、生活習慣病の予防など、我が国が抱える医療に関する課題を研究し、成果の臨床への応用、橋渡しを行うことを目的としている。

地上8階建てで、延べ床面積7500平方メートル。先月建設に着工し、来年3月に完成する予定だ。

各階に実験スペースと研究スペースを設置する。教員や学生たちが、先端医療分野で新たな学術研究に取り組みやすい環境を作るのがねらいだ。

基礎研究のほか、高齢者の医療相談や介護の実践指導、運動指導といった地域とのネットワークも構築し、研究成果を地域社会に還元する考えだ。また、看護師や医師の研修、教育といった人材育成分野にも活用していく。

■訂正とお詫び

本紙283号1面掲載の功力靖雄本学名誉教授論文集出版の記事で、功力先生のお名前を誤って掲載しました。心よりお詫び申し上げます。また、6月に発表予定の功力名誉教授の論文が、雑誌「高校野球」に掲載されると書きましたが、雑誌「ベースボールジー」の誤りでした。論文は、これまで60年間の日本プロ野球界における監督についてまとめたものです。

筑波おろし

今年も、エネルギーいっぱいの新入生がやって来た。ペデストリアンにできる自転車の列は「北京の朝」とも言われる。「自分はどこに来ているのか」とカルチャーショックを受けるだろう▼新生活への不安もいっぱいだ。にぎやかな新入生歓迎の行事が一段落した後、一人暮らしの部屋に帰ると、孤独との戦いが始まる。授業やサークルで言葉を交わすことはあっても、本当の「友達」が出来ず、部屋に閉じこもる学生もいる▼だが、ここで負けないでほしい。寂しいのは自分だけではない。思い切って隣の席の学生に声をかけてみる。しり込みせずにサークルの部屋を訪ねてみる。そこから充実した新生活が始まることもある。最初の半年間を乗り切れば必ず道は開ける▼勉強をおろそかにしないのは当然として、つくば生活を楽しむための選択肢は山ほどある。自分のスキルを磨き続ける、サークルで楽しみ、人間関係を広める。あるいはバイトで本学生以外と関わりを持ってもいい。中には東京まで足を伸ばし、他大学のインカレサークルや一般の学生団体で活躍する人もいる▼最初の1歩には、確かに大きな勇気がいる。けれども、その1歩、1つのキッカケをつかみさえすれば、世界がぐっと広がり、大学生活が楽しくなる。その1歩が、これを書く私に通じているかもしれない。

ナイスステップな研究者 渡邉教授が受賞

藻類の資源利用に貢献

渡邉信教授

科学技術政策研究所（東京・千代田区）は昨年12月25日、科学技術の振興・普及において顕著な貢献をした10組12人を「ナイスステップな研究者」として選定し、本学から渡邉信教授（生命共存）が受賞した。

渡邉教授はボトリオコックスという微細藻類を用いた炭化水素（オイル）の産生に関する研究を行っている。ボトリオコックスは燃料としてそのまま使えるオイルを産生するため、次世代エネルギー資源の開発において重要な役割を担っている。渡邉教授は、このエネルギー資源開発の基盤技術を確立したことが評価され、今回「ナイスステップな研究者」として選ばれた。

現在の段階ではオイルの生産コストが高いため、ボトリオコックスの産生したオイルが市場競争力を持つにはオイル生産効率を1桁増進させる必要があるが、それを2013年までに達成し、25年までの実用化・産業化を目指す。25万ヘクタールの土地を使うことで日本の年間原油輸入量をまかなえるが、現在日本には休耕・耕作放棄地が約35万ヘクタールあり、将来の石油代替資源として有望視されている。また、20年までに温室効果ガスを25%削減するという目標の達成に大きく貢献することから、学術分野のみならず社会的にも高い評価を受けている。

渡邉教授は「ありがたいと思っている。今まで素晴らしい方々が受賞した賞で、その名に恥じないようにしたい」と語った。

「ナイスステップな研究者」は、科学技術政策研究所の調査研究活動及び専門家ネットワークの意見を参考に、科学技術分野において近年数年間になされた顕著な業績の中から、特に科学技術政策上注目すべき人を選ぶもので、本学としては07年に受賞した山海嘉之教授（知機）以来の受賞となった。

「第3の酵素」発見

ハイブリッド酵素と命名

生命の起源解明に期待も

本学の館野賢准教授（物理専攻）らの研究グループがフランス及び東京大学の研究チームなどと共同で、生命の活動に欠かせないタンパク質の働きの仕組みで、これまでにない反応機構をもつ「ハイブリッド酵素」を発見したと、2月10日に発表した。

酵素は食べ物の消化や代謝など、生物の体内で起こる化学反応に対し、触媒として機能する重要な分子。これまで生体内ではタンパク質で出来た酵素と、リボ核酸（RNA）で出来たリボザイム（RNA酵素）が確認されていた。

今回発見されたハイブリッド酵素は、従来の生体内酵素のどれとも異なり、「リボザイムとタンパク質のハイブリッド型触媒」であることが、本学のスーパーコンピュータ「T2K筑波システム」を駆使することで解明された。

このハイブリッド酵素は、リボザイム反応が起こる反応部位にタンパク質も結合しており、リボザイムを手助けして、効率的な反応を実現する。

原始生命は、RNAで出来ていたがその後、現在のようにタンパク質やDNAが主体となる生命体へと変化していったと考えられている。この移行の仕組みだが、現在は解明されておらず、ハイブリッド酵素が何らかの働きをしたのではと考えられる。

今回の成果に対し館野教授は「最先端のコンピュータ・シミュレーション技術が、生命の本質を説き明かす時代が来つつある。これまでにない高度な研究成果が期待出来る」と語った。

カエルの前肢

5本目の指、実は骨

詳細な調査待たれる

本学の土岐田昌和助教（構造生物）らの研究グループは2月10日、前肢の指が5本あるカエルの拇指（親指）が実は指ではないことを明らかにし、英国王立協会の科学誌に発表した。

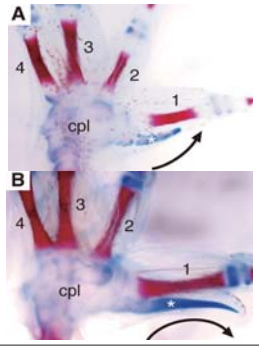
世界に約5850種存在するカエル類は、前肢に4本（後肢に5本）の指を持つ。しかし、日本固有種であり奄美大島などに生息するオットンガエルと沖縄島などに分布するホルストガエルの2種は、例外的に前肢に5本の指を持つとされる。

土岐田助教らは、オットンガエルの拇指の形成過程を幼生期から観察し、拇指と他の指を特殊な染料で染色するなどして、拇指が本来の「指」ではなく、他種のカエルも共通して持っているプレポレックスの形態が大きく変化したものであることを突き止めた。

一般的なカエルは、プレポレックスが短く、第一指に寄り添うように発達する。一方、オットンガエルは、プレポレックスが長く、第一指とは逆方向に反っているために、表面上は5本目の指と見えるのだという。オットンガエルの先端が鋭く尖ったプレポレックスは、危険を感じた時激しく前足を動かすことで、皮膚を破って拇指の外に突き出ることもあり、外敵から身を守るための武器として、役立っている可能性もあるという。

環境省による絶滅危惧種にも指定される拇指を持つこれら2種のカエルについては、不明な点も多く今後も詳細な調査が求められる。また、生息地の環境悪化も指摘され、積極的な保全活動も望まれる。

土岐田助教は、「オットンガエルの拇指形成メカニズムを調査する事で、人間や動物の手や足の指が正常に作られるメカニズムについての知見も得られるかもしれない」と述べ、まだ不明な点の多い「5本目の指」の研究に意欲を見せた。



Aが一般的なカエル（ツチガエル）、Bがオットンガエル。第一指に沿ってプレポレックスがある。

新総合科目

申請期間が短縮

国際化への対応目指す

本学の教養教育の柱の一つである総合科目に、今年度から22の新しい授業が開設される。本学のブランド力強化や、国際化に対応出来ることを目的とした授業が増え、履修申請期間に変更が加えられた。

本学のブランド力強化の一環として、講道館柔道の創設者であり、本学の前身である東京高等師範学校の校長を23年間務めた嘉納治五郎氏の業績を伝える「筑波大学と嘉納治五郎のレガシー～逆らわずして勝つ～」（体専開設）が新たに設けられる。他にも、教養教育推進室（国際部協力）が開設する「世界のTSUKUBAで学ぶ」では、本学の国際化の現状や展望を「共通科目履修案内」が作られ、すでに入学予定者へ配布されている。冊子では総合科目のほか、外国語、体育、情報処理、国語、芸術の共通科目と、教養教育の一端を担う自由科目（特設）など、本学の教養教育についてその理念と内容を紹介している。特に自由科目（特設）は今年度から科目数が増え、どの科目も魅力的な内容となっている。

2、3学期の総合科目の履修申請期間については、今年度から前倒しされるので注意が必要だった。昨年度までは申請締め切りが第1回の基本的な原理や枠組みをわかりやすく伝える「現代人のための科学」は、今年度も引き続き開設される。

さらに、今年度から総合科目を含む本学の教養教育の理解を深めるための冊子「KUBAで学ぶ」では、本学の国際化の現状や展望を扱い、学生の学ぶ意欲を高めることを目指す。

また、「現代社会における薬物問題」（学生生活支援室開設）や、「Active Aging：元気長寿の実現に向けて」（体専開設）など、学生の興味関心が高く現代的課題に対応するための授業が多い。

新たに開設される授業は、学期ごとに行われている授業評価アンケートの結果や履修者数、学生の要望などを踏まえた内容になっている。なお、昨年度から開設され好評だったクリッカーなどを用い、自然科学授業の後だったが今年度から第1回授業の前（9月1日、12月1日）までに申請しなくてはならない。受講者調整などの情報は、各支援室掲示板に掲示される。

青色防犯灯

学生提案で設置に

青色で犯罪抑止をねらう

不審者による犯罪防止をねらい、学生宿舎周辺の街路灯の一部が青色に交換された。科学的実証はされていないが、青い色は人の精神を鎮静化する働きがあるとされ、犯罪の防止に一定の効果が期待される。

設置のきっかけは、唐木清志准教授（学教）が開講している社会認識教育論という講義。昨年度は防犯をテーマに、学生生活課と警察の協力の下、大学周辺の危険な場所を学生が調査し、対策を発表した。その中で、学生宿舎の防犯策として青色防犯灯の設置が学生から提案され、警察はこれを受け、本学をモデル地区とした青色防犯灯設置を要望。大学側がそれに応え、今回の設置に至ったなお、さらなる犯罪対策の一環として、固定式の防犯カメラも設置される予定。

◇

本学女子学生が1月下旬、男に無理矢理車に押し込まれるという事件が発生した。女子学生はその場から逃げたが、犯人は未だ逃走中。大学周辺では学生がこの事件と同一と思われる男から声をかけられる事件が、1月下旬から2月にかけ2件報告されている。

不審者の目撃情報などは後を絶たない。常に複数人で行動するなど、自分の身は自分で守ることを心がけよう。

大塚校舎建て替え

来年3月まで

本学の社会人向け夜間大学院、放送大学の学習センターなどとして利用されている東京キャンパス大塚地区E・G館（文京区）の建て替え工事が今月から始まり、来年3月まで続く予定だ。E・G館は築後約50年経っており、老朽化が進んでいた。現在、E・G館に入っている附属学校教育局やビジネス科学研究科など は、旧文京区立第五中学校（文京区）、住友不動産一ツ橋ビル、住友神保町ビル（千代田区）の3カ所に分散し移転する。

新校舎は地下1階、地上6階建てで、延べ床面積は約2万2000平方メートル。生涯学習の拠点施設としての機能強化のため、本学と放送大学が共同で整備する。地階と2、3階の一部を放送大学が使い、残りを本学が利用。法科大学院（千代田区）も統合予定だ。

また、本学は文京シビックセンターで2月9日、東京都文京区と相互協定を結んだ。本学が自治体と相互協定を結ぶのは4例目、茨城県外では初。施設整備と文京区との相互協定を合わせ、地域活性化に貢献したいと考えた。

筑波の中心でEyeを叫ぶ

大学で学ぶということ

1550時間（124単位×75分×10回）、学期により差はあれ、卒業までに授業時間だけでもこれだけある。だが、大学で「何を」「どのように」学ぶべきかわからないまま、無為に長い時間を過ごす人も多い。それは、大学と高校までの間にある、私たちの「勉強」への姿勢に大いにがあることが一因ではないか。

日本の学生の多くは高校までに、正しいとされる知識を学び、「詰め込む」教育を受け、「自分で考える」ことにあまり取り組んだことがない。そのため、大学で突然自分の意見を求められると戸惑うことが多い。

「詰め込む」教育は、「正しいとしか発言してはいけない」という空気を私たちに植え付けたように思う。その場を乱す者は、KY（空気読めない）と呼ばれ敬遠された。発言を恐れる学生は、「話す」ことより「書く」ことを好むという。匿名性の高いネット社会で、掲示板やSNSなど「書き言葉」での交流が容易に受け入れられたのもこの表われだろう。

学生の意識改革が必要な一方、大学側も何か働きかけが出来るのではないか。教育の目標・達成方法及び教育内容の改善方策などを示した「筑波スタンダード」を定めるなど、授業の在り方を教員側に考えさせる機会は増えているという。学生が学びやすい環境作りは進んでいるが、このフォローは本当に学生に届いているだろうか。

大学が求めるのは、学生が「自分で考える」という姿勢。専門性の高い大学の授業だからこそ、自分から事柄にあたり、調べ、考えねばならない。自分から積極的に動くことで、1550時間はまた違った時間になる。（本紙・光安素子＝人文学類）

医師国家試験

合格率94・7％

厚生労働省は3月29日、医師国家試験の合格者を発表した。本学からは95人（内卒業生5人）が受験し、90人（同4人）が合格。合格率は94・7%だった。全体の合格率は89・2%で、本学は全国の大学で13位。

訃報

安藤 裕氏（あんどう・ひろし＝本学名誉教授） 3月19日、死去。86歳。喪主は妻・千代子さん。

1977年本学生物科学系教授、84年菅平高原実験センター長。2000年勲三等瑞宝章。

酒井 忠夫氏（さかい・ただお＝本学名誉教授） 2月9日、死去。97歳。喪主は次男・良忠さん。

64年東京教育大学教授、67年附属図書館長、74年本学歴史・人類学系教授。76年紫綬褒章。

和光 信也氏（わこう・しんや＝本学名誉教授） 3月9日、死去。72歳。喪主は長男・哲也さん。

80年図書館情報大学図書館情報学部教授、99年総合情報処理センター長、2002年本学図書館情報メディア研究科教授。

茗渓・筑波グランドフェスティバル

「言葉の独創性」について語る

コピーライター 一倉宏氏が講演
夕食を囲みながらの歓談も

本学の卒業生と在学生が世代を超えて交流する第14回茗渓・筑波グランドフェスティバル（MTGF）が1月30日に大学会館などで行われた。学問をする楽しさ、人との出会いの楽しさを願いに込め「楽」がテーマとなった。

第一部では、「きれいなおねえさんは、好きですか」などのキャッチコピーで知られる、コピーライターの一倉宏氏（昭和53年度人文学類卒）を講師に招き、「独創性の入り口とは」と題した講演が行われた。一倉氏は自らの手掛けた作品を例に、心をつかむキャッチコピーについて語り、「ことばはいつもぶきっちょで、この世界にはことばで伝えきれていない出来事がたくさんある」とことばを使ったコミュニケーションの可能性を説いた。

「創造」について意見を述べるパネリスト達

来場していた鈴木絵里香（社工2年）さんは「思った以上に楽しかった。また来年も来たい」と話した。

第二部では、山田信博学長など、参加者らが夕食を囲みながら歓談した。山田学長は「本学の卒業生が社会的な地位を得る中で、筑波大学のブランドイメージを発信しなければならない」と語った。

シンポジウムは2部構成。第1部は、昨年と同様に講師として迎えられたノンフィクション作家の柳田邦男氏が「進むべき医療と『2・5人称の視点』」と題した基調講演を行った。第2部は、赤座英之教授（当時）らが座長を務め、本学医学系教員らと看護師、がん患者の遺族が「明日世界がかわるとも、ともにリンゴの樹を植える」をテーマにパネルディスカッションを行った。

柳田氏は講演で「医療現場に温かい人間性を加えるには、どうすれば良いか。それは医療従事者が2・5人称になること。平等性を伴い、寄り添って個性ある患者のため、その人生を踏まえて対応する。一人称、二人称に寄り添った三人称こそ2・5人称だ」と語った。

つくば市内から訪れた女性は「柳田さんの講演が興味深かった。講演内容と医療従事者としての実体験とが同じで、励みになった」と話した。

「学長と学群生との懇談会」

「筑波ブランド」を議論
学長と一般学生の懇談は初

山田信博学長、清水一彦副学長（教育担当）ら大学の執行部と一般の学生による「学長と学群生との懇談会」が、先月11日、大学会館特別会議室で開かれた。懇談会のテーマは「筑波ブランドの構築に向けて」。学長と一般の学生が直接議論を交わす催しは今まで例がなく、今回が初の試み。懇談会には全学から約30名の学生が参加し、それぞれが本学について思っていることを述べ、活発な意見交換の場となった。

懇談会では大学と学生との情報共有の手段についてや、本学の国際性についてなどさまざまな意見交換がなされた。このうち、本学の国際性についての議論では、学生の「留学生を増やして大学が何をしたいのかがわからない」という質問に対し、山田学長は「地球規模の問題が多い現代では、日本だけではわからないことが多い。各国の人と交流し、世界のスタンドを知る必要がある」と述べた。

また、学生と大学側の情報共有についての議論では、学生から「普段それほど注意して掲示板を見ないし、古い情報が多く、新しい情報や有益な情報が見えにくい。情報のやりとりを確立するにはメールで情報を流すのがいいのでは」という意見が出された。これに対し、岡田実学生部長は「大学もHPに色々な情報を載せているが、そのことをあまり広報していなかった。電子掲示板の充実をはかると同時に、学生にHPの有用性を知ってもらえるようにしたい」と答えた。

この他にも「今よりも自由に学生がポスターを貼れる掲示板を作ってほしい」や「街灯を増やし、もっと安全なキャンパスにしてほしい」などの意見が出された。

懇談会の後、山田学長は「学生は本学について思っていることや、どうしたいかについてもっと自分の考えを外に出してほしい。大学としてもそれらを積極的にくみ取っていきたい」と話した。

加藤澤男教授最終講義

運動の特殊性を語る
教え子ら多数出席

元オリンピック選手で本学の体操競技部のコーチを務めた加藤澤男教授（体育）の最終講義「わがかけ上がり人生」が、2月27日、5C213で開かれた。講義には本学体操競技部の学生やOB、OGら約130名が訪れた。

加藤教授は本学の前身校である東京教育大出身で3度オリンピックに出場。金メダル8個を含めた計12個のメダルを獲得した。カール・ルイスやナディア・コマネチらと共に「20世紀を代表する25人の選手」に日本人として唯一選ばれた、日本を代表するスポーツ選手の一人である。

教授は講演で、自分の選手時代やコーチとしての経験から一連動において、分かることと出来ることは違う」と指摘。一方で「運動は知恵や経験でできている」と語り、運動の二面性についても触れた。このような運動の特殊性を指摘した上で、「運動の大半は伝承的なもの。それら多人間らしく後の世代に伝えてほしい」と締めくくった。

出席者に語りかける加藤教授

最終講義を終えた教授は、「自分が東京教育大から受け継いだ体操部の伝統を筑波大に根付かせるのが役割だと感じていた。多くの教え子たちが来てくれて嬉しく思う」と感慨深げに話した。

講義に出席し、本学の元教授で教授とは40年来の付き合いという本間崇さんは、「偉大な選手とご一緒出来て本当に幸せ。いざ試合になると落ち着きが出てくる味のある体操選手だった」と思い出を語った。

がん医療シンポ

医療に人間性を
柳田氏ら講演

本学附属病院総合がん診療センターは2月21日、公開シンポジウム「がん医療講演会」を開催し、会場のつくば市竹園（つくば市竹園）には、約300人が足を運んだ。

山田信博学長はあいさつの中で「現在、附属病院で診療後5年以内の生存率が50%に達するなど、本学が開学した約40年前と比べ医療も進歩した」と話した。

新任人事

【監事】
山下勝也（非常勤）
【学長特別補佐】
永田恭介（シス医）、板野肯三（CS）
【附属図書館長】
波多野澄雄（国日）
【博士課程研究科】
（人文社会科学研究科）科長＝川那部保明（現現）▽ビジネス科学研究科）科長＝江口隆裕（企法）▽人間総合科学研究科）副科長＝大高泉（学教）▽金尻安則（シス医）▽図書館情報メディア研究科）科長＝植松貞夫（図情メ）
【修士課程研究科】
（教育研究科）科長＝前川久男（障科）
【学群・学類】
（人文・文化学群）学群長＝畔上泰治（現現）▽比較文化学類長＝山中弘（哲思）▽日本語・日本文化学類長＝砂川有里子（文言）▽社会・国際学群）学群長＝本澤巳代子（法学専攻）▽社会学類長＝黄順姫（国共）▽国際総合学類長＝赤根谷達雄（国共）▽人間学群）学群長＝小川俊樹（ケア）▽教育学類長＝羅田貞二（教育専攻）▽心理学類長＝服部環（心理専攻）▽障害科学類長＝竹田一則（障科）▽生命環境学群）学群長＝田林明（地球環境）▽生物学類長＝濱健夫（持続環境）▽地球学類長＝林謙一郎（地球進化）▽理工学群・学群長＝喜多英宗（電物）▽副学群長＝舛本泰章（物創）▽数学類長＝磯崎洋（数学専攻）▽物理学類長＝初貝安弘（物理専攻）▽化学類長＝齋藤一弥（物創）▽応用理工学類長＝日野健一（物創）▽工学システム学類長＝堀憲之（知機）▽社会工学類長＝金澤雄一郎（社シス）▽情報学群）学群長＝中山伸一（図情メ）▽知識情報・図書館学類長＝松本紳（図情メ）（医学群）医療科学類長＝有波忠雄（シス医）

【共同利用・共同研究施設】
遺伝子実験センター長＝鎌田博（情報科学）
【学内共同教育研究施設】
陸域環境研究センター長＝松岡憲知（地球環境）▽産学リエゾン共同研究センター長＝上原健（ILC）▽教育研究開発国際協力センター長＝佐藤眞理子（教育専攻）▽知的コミュニティ基盤研究開発センター長＝田中和世（図情メ）▽学際物質科学研究センター長＝鍋島達弥（物創）▽特別支援教育研究センター長＝河内清彦（障科）▽学群・学群長＝中山伸一（図情メ）▽知識情報・図書館学類長＝松本紳（図情メ）（医学群）医療科学類長＝有波忠雄（シス医）

【共同利用・共同研究施設】
遺伝子実験センター長＝鎌田博（情報科学）
【学内共同教育研究施設】
陸域環境研究センター長＝松岡憲知（地球環境）▽産学リエゾン共同研究センター長＝上原健（ILC）▽教育研究開発国際協力センター長＝佐藤眞理子（教育専攻）▽知的コミュニティ基盤研究開発センター長＝田中和世（図情メ）▽学際物質科学研究センター長＝鍋島達弥（物創）▽特別支援教育研究センター長＝河内清彦（障科）▽学群・学群長＝中山伸一（図情メ）▽知識情報・図書館学類長＝松本紳（図情メ）（医学群）医療科学類長＝有波忠雄（シス医）

組織の略称

本紙は教育組織の略称を次の通りとします。

【学類・専門学群】
人文学類（人文）比較文化学類（比文）日本語・日本文化学類（日目）社会学類（社学）国際総合学類（国総）教育学類（教育）心理学類（心理）障害科学類（障害）生物学類（生物）生物資源学類（生資）地球学類（地球）数学類（数学）物理学類（物理）化学類（化学）応用理工学類（応理）工学システム学類（工シス）社会工学類（社工）情報科学類（情科）情報メディア創成学類（情報創成）知識情報・図書館学類（知識図書）医学類（医学）看護学類（看護）医療科学類（医療）▽体育専門学群（体専）▽芸術専門学群（芸専）
【修士課程研究科】教育研究科（修教）スクールリーダーシップ開発専攻（スクール）教科教育専攻（教科）特別支援教育専攻（特支）人間総合科学研究科（人間総合）フロンティア医科学専攻（医科学）看護科学専攻（看護専攻）
【博士課程研究科】
人文社会科学研究科（人社）哲学・思想専攻（哲思）歴史・人類学専攻（歴人）文芸・言語専攻（文言）現代語・現代文化専攻（現現）国際公共政策専攻（国共）経済学専攻（経済専攻）法学専攻（法学専攻）国際地域研究専攻（国地）国際日本研究専攻（国日）▽ビジネス科学研究科（ビジネス）経営システム科学専攻（経シス）企業法学専攻（企法）企業科学専攻（企科）法曹専攻（法曹）国際経営プロフェッショナル専攻（国経）▽数理物質科学研究科（数物）数学専攻（数学専攻）物理学専攻（物理専攻）化学専攻（化学専攻）物質創成先端科学専攻（物創）電子・物理工学専攻（電物）物性・分子工学専攻（物分）物質・材料工学専攻（物材）▽システム情報工学研究科（シス情）社会システム工学専攻（シス工）経営・政策科学専攻（経政）社会システム・マネジメント専攻（社シス）リスク工学専攻（リスク）コンピューターサイエンス専攻（CS）知能機能システム専攻（知機）構造エネルギー工学専攻（構エネ）▽生命環境科学研究科（生環）生命共存専攻（生命共存）地球科学専攻（地科）地球環境学専攻（地球環境）地球進化科学専攻（地球進化）生物科学専攻（生科）構造生物科学専攻（構造生物）情報生物科学専攻（情報生物）生物資源科学専攻（生資科）国際地縁技術開発科学専攻（地縁技術）生物圏資源科学専攻（生物圏）生物機能科学専攻（生物機能）生命産業科学専攻（生命産業）環境科学専攻（環境）持続環境学専攻（持続環境）先端農業科学専攻（先端農業）▽人間総合科学研究科・教育学専攻（教育専攻）教育基礎学専攻（教基）学校教育専攻（学教）心理学専攻（心理専攻）障害科学専攻（障科）生涯発達専攻（生涯）生涯発達科学専攻（生涯科）感性認知脳科学専攻（感性）体育学専攻（体育）体育科学専攻（体科）芸術専攻（芸術）世界遺産専攻（世界遺産）世界文化遺産学専攻（文化遺産）ヒューマン・ケア科学専攻（ケア）スポーツ医学専攻（スポ医）コーチング学専攻（コーチ）生命システム医学専攻（システム医）疾患制御医学専攻（疾医）▽図書館情報メディア専攻（図情メ）健康理センター所長＝久賀圭祐（スポ医）

建物の名称

本紙では、建物の名称を以下のように表記します。

▽第1エリアA棟＝1A棟、第1エリアB棟＝1B棟、第1エリアC棟＝1C棟、第1エリアD棟＝1D棟、第1エリアE棟＝1E棟、第1エリアF棟＝1F棟、第1エリアG棟＝1G棟、第1エリアH棟＝1H棟▽第2エリアA棟＝2A棟、第2エリアB棟＝2B棟、第2エリアC棟＝2C棟、第2エリアD棟＝2D棟、第2エリアE棟＝2E棟、第2エリアF棟＝2F棟、第2エリアG棟＝2G棟、第2エリアH棟＝2H棟▽第3エリアA棟＝3A棟、第3エリアB棟＝3B棟、第3エリアC棟＝3C棟、第3エリアD棟＝3D棟、第3エリアL棟＝3L棟、第3エリアK棟＝3K棟▽医学専門学群棟A棟＝4A棟、看護・医療科学類棟＝4B棟、看護・医療科学類講義棟＝4C棟、看護・医療科学類実験演習室＝4D棟▽体芸中央棟＝5C棟▽芸術専門学群A棟＝6A棟、芸術専門学群B棟＝6B棟▽図書館情報専門学群棟＝7A棟▽中地区共同利用建物＝共同利用棟、第2エリアE棟＝2E棟、第2エリアF棟＝2F棟、第2エリアG棟＝2G棟、第2エリアH棟＝2H棟▽第3エリアA棟＝3A棟、第3エリアB棟＝3B棟、第3エリアC棟＝3C棟、第3エリアD棟＝3D棟、第3エリアL棟＝3L棟、第3エリアK棟＝3K棟▽医学専門学群棟A棟＝4A棟、看護・医療科学類棟＝4B棟、看護・医療科学類講義棟＝4C棟、看護・医療科学類実験演習室＝4D棟▽体芸中央棟＝5C棟▽芸術専門学群A棟＝6A棟、芸術専門学群B棟＝6B棟▽図書館情報専門学群棟＝7A棟▽中地区共同利用建物＝共同利用棟A、西地区共同利用建物＝共同利用棟B

歓迎!!筑波大学新聞

写真が上手くなれる！

いろいろな人と出会える！

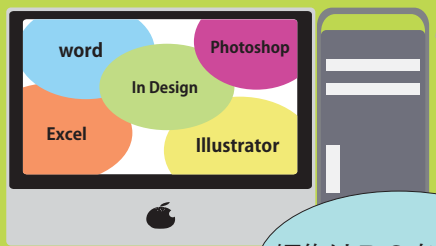
スキルが身に付く！

使用するのは一眼レフ

マスコミに興味がある人
スポーツ取材がしたい人
パソコンに詳しい人
文章を書くのが好きな人
etc
どなたでも大歓迎！
新聞部で私たちと一緒に
充実した大学生活を
おくりませんか？

現在の部員は、男子部員8人、女子部員6人、顧問（編集代表）1人の計15人です。

経験がなくてもOK！



編集はPCを使って行われます。

記者から見る世界

本紙OB
松尾 洋平 さん

「伝える側になってみようぜ」

今の新聞やテレビに何か疑問を感じるなら、筑波大学新聞に入ってみてはどうだろうか。実際に取材して記事を書く。自分の記事を皆に読んでもらう。見る側・読む側に居続けるのではなく、伝える側にまわってみる。それは貴重な経験だ。

マスメディアはいま、大変な状態だ。売れない。読んでくれない。見てくれない。広告が集まらない。何より問題なのは、伝える中身が信頼されず、皆からつまらないと思われている。

でも、皆が思うほどメディアってつまらないのかな、とも思う。みんな意外と食わず嫌いなのかもしれない。同時に伝える側の僕らも常に反省しなければならない。起きていることのおもしろさや大切さを十分に伝えているのかどうか。

あなたにしか書けないことがあるかもしれない。あなたにしかわからない事実があるかもしれない。伝える側にいないとわからないことがある。受け手の立場でぶつぶつ文句を言っているだけではもったいない。

何事も、とりあえずやってみるのが肝心だ。その経験は必ず役に立つ。それだけでなくひょっとしたら、変革期にあるメディアを、ごっそりと変えてしまう試みになるかもしれない。（平成15年度人間学類卒・日本経済新聞記者）

ここでしか出来ない経験 今までとは違う日常へ

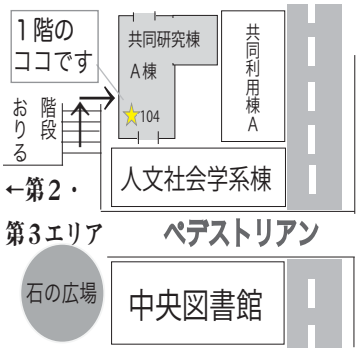
編集代表
荻野 祥三 先生

この新聞を手にとってくれた新入生の皆さん、入学おめでとう。読んでいると分かりますが、取材して記事を書き、編集しているのは学生です。新入生の皆さんと1、2歳しか違わない筑波大学新聞の編集部員です。

部員の日常は変化に富んでいます。学長へのインタビュー。ノーベル賞を狙うような先端科学者の実験室訪問。全国、世界レベルのアスリートの競技取材。新聞部に入らないとなかなか出来ない経験です。

一方で、大学生活をもっと楽しく豊かにするための取材も欠かせません。取材相手は同じ学生ですが、違う学年、学類、サークルの学生とも自由に話が出来る。そして留学生たちとも。友達が多いタイプの人はもっと増える。「少ないかも」と思う人は増やすチャンス。

取材が済んだら原稿執筆。先輩が親切に教えてくれるので経験不問です。これを書いている私は元新聞記者。もちろんアドバイスします。新聞記事というスタイルの文章が書けるとマスコミ志望者だけでなく、一般の「就活」にも有利ですよ。記事の編集に欠かせないパソコン好きの人も大歓迎。新聞は忙しいから不安？確かに少し。でも他のサークルと両立させている部員も多くいます。（筑波大学特任教授・元毎日新聞記者）



編集会議

毎週月曜日
午後6時半～
場所
共同研究棟A１０４

会議の後はみんなでご飯へ！

TEL　：029（853）6699
E-mail　：shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
web ページ：http://utshinbun.web.fc2.com/

Let's study 外国語

共通科目の英語は、本学に入学して最初に受ける授業の一つであり、学類によっては第2外国語が必修となっている。今年度は英語教育改革が行われる節目の年だ。言語教育の環境が整った本学で、外国語を学ぶことにより得られるものは何か。一つひとつの言語の魅力に触れつつ、その神髄に迫った。（本紙・西内彩香、堀木陽子、雪丸千彩子＝人文学類、西川大照＝社会学類、宇治田輝之＝国際総合学類）

共通科目 外国語

高校までの外国語学習といえば、大学に合格するための「受験英語」である。しかし大学では単語帳をお供に、黙々と勉強する英語とはもうおさらばだ。それどころか英語以外の言語に触れられるチャンスがたくさん待っている。大学生が外国語を学ぶ意義とは一体何か。本学生の外国語の履修状況などに触れながら、伊原大策外国語センター長（現現・教授）に話を聞いた。

本学で共通科目の外国語として学べるのは、英語、フランス語（仏語）、ドイツ語（独語）、中国語、スペイン語（西語）、ロシア語（露語）、朝鮮語の7つである。履修率が最も高いのが英語で、ほとんどすべての学生が学ぶ。「第2外国語」と呼ばれる仏語以下の履修状況は、仏語と独語が共に30％、中国語が20％、西語15％が、露語と朝鮮語が共に5％を占める。

受験英語よさらば

先述では「第2外国語」と表現したが、最近では全国的に「初修外国語」と呼ばれるようになっている。これまで「第2外国語」でくくられてきた言語は、一般的に高校まででは習わないものである。また、現在自分の好きな言語を「第1外国語」に選択出来るようになりつつあるため、「第1外国語＝英語」という概念も揺らぎ出している。このことから「初修外国語」という表現の方が的確とされているようだ。

本学の理系学群・学類では、初修外国語は必修でない。そのため理系学生はおのずと初修外国語の履修を敬遠しがちだ。このような点を踏まえ、伊原外国語センター長は「外国語を学ぶことによって得られるものは2つある。1つは実質的な内容に関する能力。もう1つは創造的な精神を身につける能力」と話す。

前者は具体的には、言語を話せるようなったり、書けるようになったりすることで、言語をコミュニケーションの道具として使うために必須の能力だ。後者は言語学習を通して、他分野にも応用出来る考える力や、推理力が鍛えられるということだ。手軽な思考トレーニングの一つとして、理系学生も外国語を学んでみると面白いかもしれない。

施設紹介

外国語センター2階、事務室入り口の右側には「メディアライブラリー」（旧テープライブラリー）という施設がある。昨年新設備を導入、内装と共に一新した。

ここには、TOEICやTOEFL対策のテキストや文法書などの冊子教材だけでなく、「24」や「韓国版『花より男子』」といった海外ドラマや映画のDVDがある。また、授業用CD、MDなどの音声教材も多数そろっている。

教材の貸し出しは行っていないため、施設内に設置された再生機器で視聴する。書架にある映像教材はパッケージのみの空箱で、空箱を カウンターに持って行って本体を受け取る仕組み。DVDを視聴する際には字幕切り替えが出来、ヒアリング練習には最適だ。施設内のコンピュータはインターネットにはつながっていないが、エクセルやワードは利用出来る。

開館時間は平日午前9時から午後7時まで。長期休暇中も開館しているが、土日、祝祭日は休館。「こうしてほしい。このような教材が欲しい」という意見をカウンターの職員に伝えれば、教員らが教材の有用性を検討後、可能な限り対応してくれる。過去には学生貸し出し（館外への持ち出しは禁止）やNHKラジオ講座のCD購入を始めた。

また、今年度から外国語センターには6つのCALL教室が導入される。CALLとはComputer Assisted Language Learningの略で、コンピュータを用いて外国語学習を支援するシステムのことだ。

CALL教室にはコンピュータが設置され、音声、映像、インターネットを使った授業が行われる。また、教材のダウンロードやマイクを用いた発音チェックも可能になる。

今後は開放時間を定め、一部の教室を自由に利用出来るようにする予定だ。

再生機器の周囲は仕切られ、個室感覚で利用出来る

新設備が学習を支援

山利信准教授（文言）は「とにかく他人と一味違うことをしたい人、一味も二味も違う言葉を学びたい人はぜひロシア語を履修してほしい」と話る。

本学の海外拠点の一つには、旧ソ連の共和国であったウズベキスタンがある。ロシア語圏の協定校も多く、留学して英語圏とは異なる文化を体験したい人にもおすすめだ。

第2外国語

共通科目の「第2外国語」として開設されている外国語は6つ。それぞれに長所や特徴があり、どの言語に魅力を感じるかはあなた次第。ここでは3つの言語について紹介する。

フランス語

文房具などに、洒落た字体でフランス語が書かれた物をよく目にする。フランス語を履修したある学生は、黒い表紙に「Neige」と書かれたノートを愛用していたが、実はこれは「雪」という意味で、その装丁とはかけ離れた語だと知ったそうだ。フランス語を学ぶと、お洒落な小物もどこかこっけいに見えてくるかもしれない。

フランス語は国際会議で使われる言語の一つ。第2外国語として1年間学ぶことで、自由に使いこなすまでは行かないが、慣れる事は出来る。1年間の学習は、より深く学ぶための準備期間といえよう。

フランス語学習者の留学先はパリが多いが、フランス中央部のロアール地方などは発音が奇麗でおすすめ。フランスは外国人に対し非常に好意的で、下手でもフランス語で話せばとても喜ばれる。フランス語を学び、フランス人の根底にある、明るい雰囲気に触れてみてはどうだろうか。

中国語

「中国語は漢字を使うから日本語に似ていて学びやすそうだ。こう考えて中国語を履修しようとする学生は多いかもしれない。

しかし、漢字を使ってはいるものの、中国語は日本語とは全く異なる。その一例が発音だ。中国語は一つひとつの音節がそれぞれ異なる4つの音の高さを持っている。これは四声と呼ばれ、4つそれぞれが異なる漢字と意味を持っている。例えば、「同じ「J-i」という音でも、音の高さによって「機、級、己、記」などという別々の意味を持つ。また、中国語には日本語でいう「が、～を」などの助詞がなく、主格といった文法上の格は全て語順で示されるという特徴がある。そのため、中国語は語順を覚えれば初心者でも読みやすい。ただ、いざ発音しようとすると四声があるため、なかなか発音出来ない。中国語は読めるが会話が難しい言語なのである。

音の高さで意味変わる

本学で共通科目として開設されている中国語を1年間学ぶと、中国へのバックパッキングなど、中国へのバックパッキングなど、中国へのバックパッキングなど

英語教育改革

37年目の大改革

開学以来37年間変わらなかった英語カリキュラムの改革が始まる。今年度の試行実施を経て、来年度から全体で実施される。改革が目指すのは、世界的研究・教育拠点として総合大学の本学にふさわしい、学術的な専門教育の出発点としての教養英語教育だ。

現在英語は学類、専門学群で1年次必修科目となっており、リーディングの「英語Ⅰ」、オーラルコミュニケーションの「英語Ⅱ」、リスニングの「英語Ⅲ」などに分かれている。また、2月末に行われる「筑波英検」に合格しないと単位として認定されない。

現行カリキュラムの問題点として、同じ科目でも担当教員により授業内容が大きく異なること、学生が自ら進んで学ぼうとしない受動的なカリキュラムであることなどが指摘されていた。また筑波英検は、検定試験として社会的に十分認知されておらず、単位認定の絶対的な評価尺度としては見直すべきという指摘があった。

そこで、教育理念を明確にした、学生のモチベーションを高めるためのカリキュラムを新たに導入し、筑波英検は廃止することとなった。平成22年度の筑波英検が不合格だった学生は、学期完結の再履修者用科目を履修することで単位認定する。

平成23年度からは1年次必修が、英文の講読を通して考える力を養う「英語基礎」、異文化への理解力、気付く力を養う「異文化と英語」、CALL教室を利用して学問に必要なスキルを身に付ける「総合英語」にそれぞれ変わる。もし、今年度英語の単位を取得出来なかった場合、「英語Ⅰ」なら「英語基礎」を、「英語Ⅱ」なら「異文化と英語」を、「英語Ⅲ」なら「総合英語」を次年度以降再履修することになる。また、再履修者用科目の設置も検討されている。

さらに、2年次で専門英語基礎演習が必修になる学類もある。0・5単位の学期完結の授業で、3科目中2科目選択し履修する。英語論文などの書き方の基礎を学ぶ「アカデミック・ライティング」、英語を使ったプレゼンテーション演習」、CALL教室を利用したりテスト形式の問題演習で基礎力の定着を図る「テストテイキング演習」に分けられている。

専門英語基礎演習は各学群・学類における専門の英語への「橋渡し」科目で、一般学術目的の英語とテクニカルタームなど、特定の学問分野に必要な英語のギャップを埋めてほしいという学生の要望に応え、導入した。一般学術目的の英語に基礎を置き、各分野に共通したものが中心になる。国際総合学類など、改革前から独自に橋渡し科目を設けているいくつかの学類、専門学群は必修としない。また、芸術専門学群は別に独自の橋渡し科目を用意し、専門英語基礎演習と選択出来るようにする。

学生が変化に戸惑わないよう、今年度から「専門英語基礎演習」を試行実施する。筑波英検合格者が履修出来る「英語S」を学期完結にし、そのなかで実施していく。

【新英語カリキュラム】

一般学術目的の英語

1年次必修科目

「英語基礎」「異文化と英語」「総合英語」

※各1.5単位3科目

2年次：専門英語基礎演習

「アカデミック・ライティング」

「英語プレゼンテーション演習」

「テストテイキング演習」

※0.5単位2科目選択

橋渡し

特定学術目的の英語

2年次以降：

各学類が開設する専門の英語

視点

言語から学ぶ文化

かつては中国に市場を開拓しようとする商社が、中国語を積極的に学ぶということが見られた。「中国語を話せた方がビジネスに有利」という発想から取り組まれたことであろう。しかしそれは結果として、大国であり、歴史ある中国の文化を学ぶことになり、中国人とコミュニケーションを図る上で役立った。

言語はその国の文化の基盤を成す。言語から思想が生まれ、文化が生まれ、国民性や民族性が確立された。少し話が逸れるが、今も、メディアライブラリーなどの少数民族の間で伝えられてきた言語が絶滅の危機に瀕している。話者がいなくなることによる「言語の死」は、同時に彼らの文化の死や、アイデンティティの喪失につながる。言語には価値ある情報が、その言葉の持つ意味以上に詰まっているのだ。

本学は言語学習の環境も、設備も整っている。外国際理解の方法であるとともに、必修でなくとも、新学期を機に学び始めてみてはどうだろうか。

アメリカ先住民やアボリジニは言語を通じて、自然とのつながりを大切にする考え方を学ぶ。また本学では、1年間ドイツ語を履修すれば誰でも、夏休みに格安でドイツのバイロイト大学へ研修旅行に行ける制度が設けられている。他にもスペインのサラマンカ大学などと協定を結んでおり、年に3－5名の学生が夏休みを使って短期語学研修に行っている。

現在は、もはや語学力だけが問われる時代ではない。言語を通じて、その国の文化や思想に触れ、円満なコミュニケーションを図れるようになることも大切だ。語学学習を最も手軽なものとして、大学OB・OGの中国関係者で作る「茗渓中国会」を通じた活動や人の輪も広がってきた。

その活動の一環として、昨年11月には「茗渓中国会」のメンバーがパネリストを務めるシンポジウムが開催され、多くの在校生やOB・OGに参加して頂いた。また、新年度からは、1学期の金曜4・6時限に「21世紀の中国－現代中国の諸相」として、第一線で働く各分野の中国関係OB・OG10名が、おのおのの専門分野の講義を行うことになった。「中国」をキーワードとする先輩方の、実体験に基づく話を聞ける貴重な機会だと思うので、ぜひ聴講頂きたい。（平成10年度人文学類卒）

HELLO! 先端科学

運動で頭スッキリの理由 最新の測定法で明らかに

脳の機能向上

適度な運動をすると頭がすっきりして集中力が上がり、その後の仕事や作業がはかどる。誰しもこのような経験をしたことがあるだろう。これまで、運動が脳に与える影響については感覚的には理解出来ても科学的には証明されていなかった。

今回、本学の征矢英昭教授（体科）と農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所の檀一平太主任研究員らの研究グループは、光による脳機能イメージング法の光トポグラフィと最新の空間解析法を用い、短時間の中強度運動が脳の認知機能を向上させることを実証した。

実験は、19－24歳の男女を対象に行った。参加者は、10分間自転車のペダルをこぐという中強度の運動を行う前後と、運動をしない状態（安静）でストループ・テストをいずれも7分半実施し、それぞれにかかった時間を比較した。その際に、ストループ・テスト中の前頭前野の脳活動を光トポグラフィで計測した。実験の結果、運動条件の参加者全員が、運動後のほうが安静時に比べテストへの反応時間が短縮した。また、前頭前野背外側部の血流が増加して活動が活発化していることが確認できた（図1）。

光トポグラフィには、計測したい体の部位に直接装着出来、測定時間が短縮出来るというメリットがある。しかし、脳の活動を頭の上から計測するため、脳の構造を空間的に知ることが難しく、運動による認知機能の変化が脳のどの領域で起こっているのか特定出来なかった。だが、檀主任研究員らが開発した、光トポグラフィで計測した位置情報をコンピュータによるシミュレーションで算出する空間解析法（バーチャル・レジストレーション法）を適用することで、脳の部位の特定が可能になった。バーチャル・レジストレーション法が光トポグラフィの機能を補完したため、今回の実験では、光トポグラフィ単独で脳の空間解析が実現した。

今回の研究で認知能力の向上が明らかになった前頭前野背外側部は46野とも呼ばれ、注意力、集中力、判断力、記憶力をつかさどる実行機能としての役割を持つ。またこの部位は、認知症やうつ病、自閉症を発症した際に機能が低下することが分かっている。そのため「短時間の中強度運動は、うつ病など精神疾患の処方にも効果があるのではないか」と征矢教授は医学とスポーツのさらなる連携に期待を寄せる。

今後は、運動後の効果がどれだけ持続するのか、より程度の軽い運動でも効果があるのか、などについても研究を続けていく予定だ。また「今後は子どもも実験対象にしてみたい。日々のトレーニングでストレスがたまっているスポーツ選手のコンディショニングにも利用出来るのではないか」と語る。

今回、10分間の運動を行ったあとにストループ・テストを行うと、テストへの反応時間が短縮したことが確認出来た。

運動は、単に筋力をつけるためだけではなく、脳を活性化させることにも有効である。新学期から、1日10分間程度の運動を日々の生活に取り入れてみてはいかがだろうか。（本紙・根津彩香＝国際総合学類）

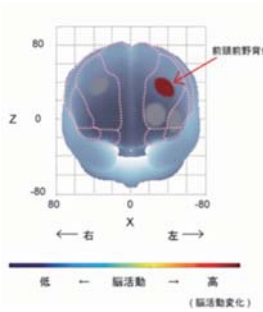


図1：前頭前野背外側部（矢印）

◆ストループ・テスト

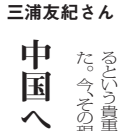
1935年に考案されたテストで、脳の実行機能の検査に用いられる。テストの難易度はさまざまで、解答者は文字の色を答えるよう指示される（図2）。

例えば、赤色の「みどり」という文字を見たとき、本来ならば「赤」と答えなければならないが、注意力が散漫な状態だと、文字だけを見てとっさに「緑」と答えてしまう、もしくは答えてしまいがちだ。

図2：ストループ・テスト

交換留学からの手紙

日本生命保険 中国室勤務



三浦友紀さん

13億人の住む黄色い大地。そして、巨大な消費マーケットとしての「中国」に魅せられ、約20年になる。現在、私は、日本生命保険相互会社で、中国での生命保険事業経営に関わっている。

入学前から中国の消費マーケットの可能性を感じ、大学では3年次で休学し、1年間西安・北京に留学。1995年当時、中国では、日本では当たり前の「保険」という概念が一般には普及しておらず、「これは巨大な商機ではないか」と感じ、就職活動では、中国進出を検討していた現在の会社に入社した。

入社3年目で念願が叶って中国進出プロジェクトチームに異動。そして、中国のWTO加盟前日に、中国政府より、日本の生命保険会社として初めての「生命保険事業ライセンス」を取得するという歴史的な場面に立会った。経済紙1面を飾ったニュースに自分が携わったのだという感動は今も忘れられない。

その後、金融都市・上海で現地法人を立ち上げるという貴重な経験も得た。今、その現地法人は、設立後約6周年。3月末からは実際に上海で働くことが決まり、非常に嬉しく感じている。

中国ビジネスに関わってから約10年。これまで困難なことも多々あったが、「中国で生命保険を普及させたい」という学生時代の想い・夢を決して忘れずに、仕事に取り組んできたことに誇りを感じている。

また、周囲のいろいろな人の助言もあり、この分野の専門性を磨くべく、学会誌への投稿や社会人大学院の学位取得など、社会人になってからも自分の世界やフィールドを広げている。社会人は、学生とはまた違った知的楽しみがあると感じる。

専門性や得意分野を突き詰めることで不思議と人の交流の輪も出来るもので、大学OB・OGの中国関係者で作る「茗渓中国会」を通じた活動や人の輪も広がってきた。

その活動の一環として、昨年11月には「茗渓中国会」のメンバーがパネリストを務めるシンポジウムが開催され、多くの在校生やOB・OGに参加して頂いた。また、新年度からは、1学期の金曜4・6時限に「21世紀の中国－現代中国の諸相」として、第一線で働く各分野の中国関係OB・OG10名が、おのおのの専門分野の講義を行うことになった。「中国」をキーワードとする先輩方の、実体験に基づく話を聞ける貴重な機会だと思うので、ぜひ聴講頂きたい。（平成10年度人文学類卒）

中国への思い胸に働く

反射鏡

みんなおいで憩いの庭園へ

佐藤歩美（芸専2年）

体芸棟と外センの間……なんか西側にぽつぽつと建物とかベンチがある―ってとこにひょっこりと顔を出している小道を下ってゆくと見える場所。ぽっかり空いた空間に、広い芝生やイングリッシュガーデンなどが待ち受けているそこが、私のおすすめスポット。

彼の名前はMuseGarden（ミューズガーデン）。ファイン系と違ってデザインの分野は500分の1や2000分の1の図面や模型しか扱うことができず、自分が造るという実感がない、というのが学生にとってのジレンマであった。それを受けてこの場所が教育用の実験・演習庭園として造られたのだ。ここは学生たちの手により変化し続け、「完成」という状態は存在しない。演習コンペによりあずまやを建築したり、彫塑作品が設置されたり、テーブルを作って置いたり、ハーブガーデンや畑を作ってみたり……。造るだけではない。学園祭ではJazz Fesが毎年行われ、昼にはお昼寝やピクニックをする学生が、夜には映像作品の上映会が、また打ち上げ場所になったりもして、芸専の人々にはなかなかなじみの場所となっている。

しかし、芸専以外の人が使っているところをあまり見ない……なぜだろう。もったいない。こんなにいい場所なんだしもっと人が集まるようにしたい！……そんな思いを胸に現在、進められているのが、芸専デザイン有志による「オニワ計画～デザインの逆襲～（仮）」である。自分で作れる、失敗してもいいというすばらしい魅力に取りつかれて妄想を広げ、今はまだ畑の掃除など始動段階だが、徐々に活動を広めていって、一環としてミューズガーデンでパーティなども開くつもりなのでぜひとも注目してみてほしい。いワ、まずはここへ来てお昼寝をしてみてほしいかな。

日常忘れる図書館の中

古畑侑亮（人文2年）

僕のお気に入りの場所、それは図書館です。

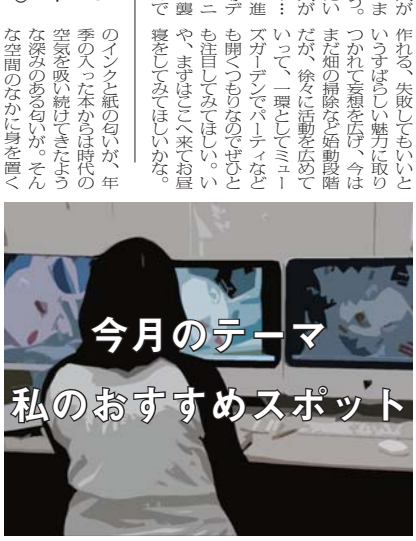
まず、その雰囲気がいいです。そこに存在するのは本と棚だけであり、しーんとした不思議な雰囲気に包まれています。同時に本からくるほのかな香りが漂い、鼻の頭をくすぐります。新しい本からは、刷りたてのインクと紙の匂いが、年季の入った本からは時代の空気を吸い続けてきたような深みのある匂いが。そんな空間のなかに身を置くと、煩わしい現実の喧騒をしばし忘れることができます。

そして図書館は、勉強の場として使うことができます。ものごちゃごちゃした自分の部屋とは異なり、本以外にものというものの無い図書館では他のものに気をとられることなく集中して勉強することができます。また、周りの人が頑張っているのを見ると自分も頑張らなければという気持ちになれます。〝相変わらず受験生みたいなこと言っている自分が悲しいです。

最後に、何より図書館は知識の海です。先人たちが残してくれた知の遺産がそこには横たわっています。図書館に行って本を手に取り、パラパラめくっているだけで、さまざまな発想が浮かんできます。今まで知らなかった分野の本を見つけると、新しい世界が切り開かれ、そこから明るい光が射してきたかのような感動を覚えます。僕はこうした図書館の知的なわくわく感が好きです。

しかし、今の筑波大の中央図書館は遠いまま。耐震工事のために、普段一番使うはずの3、4階の図書は中2階に押し込められ（平成22年2月現在）、工事の騒音がうるさく、せっかくの静寂な雰囲気は台無しにされ、勉強に集中できるような環境ではありません。

この原稿が新聞に載るころには3、4階は利用できるようになっていることでしょう。耐震工事は今年度までということですが、早く完成して、僕のお気に入りの場所のひとつになればいいなと思います。



カフェさながら献血センター

吉村由佳（資源3年）

おいしい献血センター。これを読んでピンときた人はどれくらいいるのでしょうか。私のおすすめスポットはそう、献血するときこそ、献血センターです。

なぜまたおしゃれなカフェとか景色のいい場所とかでなく、献血センターなのか。行ったことのある方は知っていると思いますが、献血センターに設置されている自動販売機の表示は全て「¥0」です。さらに、椅子の横には箱いっぱいの菓子が。これ全部、献血に協力してくれる人へタダで食べていいのです。特に甘いものの好きな女性、まさに夢の場所だと思いませんか。食べ物だけではなく、洗剤やティッシュペーパー、カップラーメン等もれなく献血後に持って帰ることができます。今月財布がピンチな人、タダで生活必需品ゲットのチャンスです。

そして献血センターをすすめる理由はもうひとつ。働いている人々が皆ほのぼのしていて、そしてとても雰囲気が温かいのです。私はすっかりあの温かい雰囲気にはまってしまいました。お勧めは天気のいい平日午後の時間。大きなガラス窓から差し込むあたたかい陽を感じつつ、落ち着いた空間で紅茶やお菓子を食べ、本や雑誌を読みながら順番を待つ。献血をしに来たのに、カフェにいるような気分になります。今では献血というよりも、この空間を味わいに献血センターに行くようになりました。

献血は社会貢献のひとつでもあります。私が思うに献血センターは社会貢献もしつつ自分自身もリフレッシュできる、そんな素敵な場所です。

最近では若年層の献血への参加がここ10年で半減したそうです。注射が苦手でない人、血の気の多い人、ちょっとお腹のすいた人、今月ピンチの人、ぜひ一度足を延ばしてみてください。社会貢献ではなくお菓子や洗剤が目的でも、受付のお姉さんは温かく迎え入れてくれることでしょう。

筑波時評

トヨタプリウス ブレーキ問題

欠陥でないのにリコール ユーザーの感覚とズレ

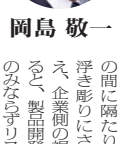
日本を代表する企業であるトヨタが一連の問題でニュースをにぎわせている。特にアメリカではこぞってばかりバッシングの対象となっているようにも見受けられる。急加速事故については電子噴射装置制御プログラムなど可能性が指摘されているが、まだ因果関係ははっきりしておらず今後の原因究明が待たれよう。一方日本国内ではプリウスのブレーキ制御プログラムの不具合に伴うリコール報道ばかりが目についた。しかしちょっと待ってほしい。ブレーキリコールの件とその他では少し様子が異なる。今一度プリウスのブレーキ不具合について整理しよう。

ご存じのようにプリウスはハイブリッドカーとして登場し、非常に高い燃費性能を誇っている。その低燃費性能を実現するために、通常の油圧ブレーキに加え、減速時にエネルギーを回収して電気エネルギーとしてバッテリーに蓄える電力回生ブレーキを備えており、その両方を電子制御するという非常に複雑なブレーキシステムを持っている。ブレーキペダルは実はデジタル信号入力装置なのである。これにより従来は廃棄されていた減速時のエネルギーを有効に利用して低燃費を実現している。

リコール問題はこの制御システムの設定に起因している。通常のクルマでも現在はABS（アンチロック・ブレーキシステム）が備えられており、緊急ブレーキ時にはタイヤが空転しないように自動的に断続ブレーキがかかる。プリウスでは減速時にまず回生ブレーキを作動させ電力回生を行うので、滑りやすい路面では回生ブレーキから油圧ブレーキに切り替わる必要がある。そのため今回〝低速時に一瞬ブレーキが効かない〟というクレームが起きたのだろう。旧型のプリウスと比べ0・06秒長い〝空走感〟を感じることがあったという。

ブレーキの電子制御は安全に直結するため、プリウスでは強くブレーキを踏めば従来の油圧ブレーキに切り替わり、確実に停めることができるように設計されている。豊田社長が「ブレーキをしっかり踏めば止まる」と説明していたのはこのためだ。このような安全設計を〝フェイルセーフ〟と呼ぶが、信頼性工学の観点から見れば、フェイルセーフ機構が備わっていて機能するのならばそれは制動するという本来のブレーキが務めるべき機能を充分に果たしているとして欠陥製品にはならない。リコール制度は本来〝欠陥〟個所があった場合、届け出て無償で回収・修理しなければならないとする制度あり、これはメーカー側から見れば欠陥品を作って売っていました、と認めるようなものである。ブレーキ機能が動作しないという欠陥があるのではなかっただろうか？当初副社長が「フィーリングの問題」と発言してひんしゅくを買ったが、製品はユーザーあっての製品であることを忘れてはならない。

今回の問題はデジタル化した製品と人の感覚との間に隔たりの高さが浮き彫りにされたと言え、企業側の視点から見ると、製品開発の難しさのみならずリスクの多様化への対応の難しさを物語っている。ユーザー側の視点のみならず、企業側の視点双方から物事の本質を見極められるように心がける必要があろう。（リスク・講師）


岡島 敬一

留学生の目

グエン・ティ・マイ・フォン

皆さんこんにちは！留学生のマイと申します。日本に来てから4カ月が経ちました。長いとも短いともいえない時間でした。「思った通り」のこと、「思ったより」のこと、そして「思ったのと全然違う」ことなどを相当味わいました。どんなことがあっても、日本のことが好きだと確信したいと思います。この短い記事では一つの「思ったより」のことに少し触れたいと思います。

ここに来る前に「つくばは静かだよ」と言ってくれた人がいましたが、こんなに静かだとは想像学生のマイと申します。

静かなつくばに戸惑い

「一緒に笑ったり、泣いたりしましょう」というつくばは映画館のスローガンを思い出しました。面白いスローガンで、映画を見ながら全然知らない人と一緒にこういう風になったらいいなぁと感動しましたが、事実は違いました。有名なキャメロン監督の新傑作「アバター」を見たとき、叫んだりしたいほど感動したでもこんなに静かなわけではありません。関西や沖縄の方へ行ったら違う雰囲気が味わえるはずです。日本らしくないと言われている沖縄では知らない人と一緒に歌ったり踊ったりにぎやかな雰囲気で過ごしてきた私は、「この人たちとずっと前から友達であったかなぁ」と温かく感じました。

何でつくばでは静かな雰囲気が自立っているのか理解できませんが、沖縄を離れた日つくばへこの「にぎやか」「温かさ」を持って帰ればいいなぁと思いました。（原文のまま）

（日本語・日本文化研修留学生・ベトナム）

投稿募集

本紙ではみなさまからのご意見をお待ちしております。

次号のテーマは **身近な人への感謝** です

連絡先
TEL 029・853・6699
e-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

筑波大学卒業ダンス公演

思い出胸に卒業生舞う

表現方法にも趣向凝らす

全国大会入賞作品も公演

筑波大学舞踊研究室が主催となって毎年開催されている「筑波大学卒業ダンス公演」が、2月17日、大学会館講堂で行われた。舞踊研究室の修了生と卒業生の作品の他にも、舞踊実技理論・実習の受講生有志による作品やダンス部、舞踊研究室院生による作品が披露された。

舞踊研究室卒業生による「あなたが生まれた空の下」は、音楽と語り手の言葉に合わせた、ゆったりとした舞踊で観客を魅了した。

迫力のあるダンスを披露した

ダンス部の作品「泥に咲く―『白夜行』―より」では、白い大きな布を効果的に使った表現が用いられ、観客はその神秘的な雰囲気に息をのんだ。この作品は、昨年8月に行われた第22回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）で、NHK賞を受賞している。

他にも、マイケル・ジャクソンの名曲に合わせて激しく踊るものや、クラシックに合わせて幻想的に踊るものなど、時代やジャンルを問わないダンスが披露された。

今公演の実行委員長を務めた鈴木絢弓さん（当時体専4年）は、「ご指導くださった先生方、協力してくれたスタッフには感謝しきれない。同期の卒業生には、最上級の『ありがとう』と最高潮の『またやろうぜ』を伝えたい」と語った。

ウィンターマジックショー

「和妻」で会場わく

桜で季節感も表現

本学マジシャンズクラブによるウィンターマジックショー「2010年奇術の旅～Magic odyssey～」が、2月3日に大学会館ホールで行われた。観客の中には親子連れの姿も見られ、マジックショーの人気の高さがうかがえた。

マジックを演じたのは、平成21年度の1年生たちだ。昨年4月に入学してから10カ月の練習の成果を披露した。

ショーの最後には、はかま姿の2人の男女が「和妻」と呼ばれている日本古来の奇術（マジック）を演じた。唐傘などを使用した華やかな演技に、会場からはひときわ大きな拍手が起こった。

自身も趣味でマジックをするという阿見町から来た男性は「ウィンターマジックショーには以前も2回ほど来たことがあるが、今回は和妻がすばらしかった」と学生の技に驚いていた。

和妻を披露した高見澤広子さん（生物2年）は「初舞台で緊張したが、お客さんに素晴らしいと言ってもらい嬉しかった。これからも頑張っていきたい」と話した。

フォルクローレコンサート

音や舞踊で中南米を表現

力強い歌声で会場は熱気に満ちた

筑波大学フォルクローレ愛好会とフォルクローレサークル南（スール）主催の「第23回合同コンサート」が、2月11日つくばカピオ（つくば市竹園）で開かれた。会場には学生、一般など多くの観客が訪れ、客席のほとんどが埋まる盛況ぶりだった。

公演はフォルクローレの代表曲である「El Condor pasa（コンドルは飛んでいく）」の演奏で幕を開けた。その後は8グループが各自2～3曲ずつ、計17曲を披露した。曲は中南米のノリの良いものや、しっとりと静かに聞かせるもの、現地の言葉で学生が歌うものなど、多岐に渡った。観客の中には曲に合わせて手拍子をしたり、体をスイングしたりする人も見られた。

今回の公演では、1、2年生の有志によるアンデス地方の伝統的舞踊も披露された。細かな刺しゅうが施された茶や橙色の民族衣装に身を包んだ9人が、ボリビア人プロのダンサー仕込みの部族の戦いを表現するダンスを激しく踊った。

エンディングでは、メンバー全員による大合奏、大合唱が行われた。肩を組み、楽しそうに笑顔で歌う姿に、パフォーマンス終了後、客席から盛大な拍手が送られた。

石岡市から訪れた同サークルのOGは「熱いステージだった。盛り上がってとても良かったと思う。後輩たちの成長を見られた」と感想を述べた。コンサート委員長を務めた宮田将史さん（生物3年）は「ご声援に感謝です」と語った。

第11回彫塑展

ゆかりの地で36点を展示

芸術専門学群と芸術専攻博士課程の学生による、第11回彫塑展が先月6―14日、湯島聖堂大成殿回廊（東京・文京区）で開催された。湯島聖堂構内は、かつて本学の前身校である東京師範学校があったゆかりの地だ。

バクやキリンなどの動物を模した彫刻や裸婦など計36点が展示され、家族連れや写真家などが足を運んだ。13日には視覚障害を持つ人を招き、作品に触れてもらいながら解説したり、学生による公開制作などを行った。

文京区内から訪れた本田哲也さんは「筑波大の個展がどこかで開かれるとは聞いていたが、湯島聖堂だとは知らなかった。筑波大学に芸術系の学部があることは初めて知った。プロの作品と比べれば出来えはまだまだだが、視点が素直で良い。まじめにやっている印象を受ける」と話した。

特徴だ。「良い悪い」ではなく、「ちょっとした考え方の違いだよ」と著者は説く。こうしたことがほのぼのと語られ、いつしか林マジックにはまっていく。不思議な感覚だ。

本書を読めば、イギリスに行ったことない人は、ぜひ一人旅をしたくなるだろうし、行ったことのある人は、また行きたくなるだろう。私はと言えば、その後、辞書学研究の関係でちょくちょくイギリス出張と週末のドライブを繰り返し、そのスピンオフとして、というか「ドライブすればイギリスの素顔が見える」（亜紀書房）という本まで出したのであった。（平凡社・1748円、文芸春秋・466円）

（現現・准教授）

原点 GEN-TEN

音楽から障害福祉の道へ

命の尊さ世間に伝える

私にとって研究、そして生き方の「原点」とは何だったかを振り返るとき、思い浮かぶ光景があります。高校1年の秋、私はTさんという知人の男性に誘われ、ある障害者職業訓練施設が利用者のために企画したバス旅行に参加しました。初老のTさんは、当時そこで鍼灸マッサージを学んでおられた中途失明者でした。目的地に向かうバスのなかで、Tさんは茶目っけたっぷりに私を「娘」と紹介し、仲間からも「娘さんが年頃になったので、結婚相手探しのために連れてきたのか」とからかわれて愉快そうでした。

障害のある人々の旅行が今ほど日常的ではなかった当時、現地には地元テレビ局が取材に来ていました。若い女性レポーターがTさんにマイクを向けました。「どこからおいでになりましたか？」「今日は楽しいですか？」ありふれた質問が続いた後、彼女は隣にいた私を見てTさんに尋ねました。「娘さんですか？」「はい」すると彼女は私にマイクを向け、あっけらかんとした明るい声でこう言ったのです。「お嬢さん、大変ですね」

――障害のあるお父さんがおられて大変ですね。私は言葉を失いました。この女性は、私に何を言わせたいのだろう。何か言い返してやらなければと身構えた瞬間、私の目の端に隣にいるTさんの顔がちらっと映りました。彼はバスのなかで仲間にからかわれたときと同じ表情で、言葉に詰まった私を愉快そうに眺めて笑っていました。その笑顔には、自分に吹きつける風の過酷さも矛盾もすべてを受け止めて、毅然として生きる人間の強さがありました。風に抗して立つ――。このときのTさんの姿は鮮烈な印象をもって長く私の胸に残りました。

岡 典子

その後、私が紆余曲折を経て障害科学の道を志したのは、大学院に進学した28歳のときでした。音楽大学を卒業し、クラシック音楽一筋に生きてきた私にとって、新たな世界に飛び込むことは不安もありましたが、最後に私の背中を押してくれたのはあの日に見たTさんの姿でした。大学院での研究テーマは、アメリカの盲学校史研究でした。今から180年近く前、視覚障害者が人間として尊重されることも、社会で活躍することも当たり前とは見なされなかった時代にあって、「自らを頼み、自らを誇りとする障害者の育成」の理想を高く掲げ、社会の差別と闘い続けた学校創設者や、懸命に学んだ多くの生徒・卒業生の生きざまは、Tさんの姿に重なりました。

23歳の若さで生涯を閉じたハンセン病の作家、北条民雄は「吹雪の産声」という作品のなかで「いのちは、いのちにつながっている」という言葉を残しています。歴史のなかに埋もれた障害者教育・福祉の先達や障害のある人々のひたむきな人生を現代によみがえらせ、彼らの願いを次の時代についでゆくこと、それが研究者としての私の使命だと思っています。

おか・のりこ

1965年生まれ。人間総合科学研究科障害科学専攻准教授。桐朋学園大学音楽学部卒業、筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科単位取得退学。福岡教育大学講師、東京学芸大学講師、同大学准教授を経て2008年4月より現職。専門は障害原理論で、主に歴史研究の立場から障害と社会の関係を追究することがテーマ。

私の一冊

食から英国文化を考える

イギリスはおいしい

林望著

磐崎 弘貞

このパンチのないタイトルを見て本書を手に取る人は、よほどイギリスに関心ある人であろう。私もそのような人物の一人だった。確かに、タイトルから想像出来るようなエッセイは多い。例えば、英国人以外に不評の温野菜。どんな野菜もただひたすらゆでて、どれもほとんど同じグニャとしたテクスチャとなる。これを18世紀の料理書などをひもときながら、これは味覚音痴なのではなく、1つの味覚体系であり、慣れれば「ウム美味しいぞ」と感じるようになると説く。

マクドナルドよりひどい粗食と言われるフィッシュンチップス（fish and chips）だが、これも英国的食品だと説く。ショップでの食べ方から、なぜ、揚げたフィッシュのみならず、ポテトにまで酢をかけるのか、なぜ映画にまで登場するのかまで、薩薔（うんちく）は続く。チップスだけをランチとするイギリス人もいることを知っている人は、ウンウン、そうだそうだと読み進めることになる。

イギリスのパブもはずせない。多くのパブは、古い建物を、それは美しく整備して営業している。それぞれに特徴ある絵看板のある店に入ると、年代モノの調度品に目を奪われる。人々は、ビールをちびちびと飲みながら談笑し、カラオケを熱唱する人などいない。3人いれば、3人が飲み終わったところで、順番に新しいドリンクを力ウンターに買いに行く。これがイギリス的割り勘だ。家族で食事ができるセクションもあり、日本の「パブ」や酒場と同一視してはいけない。非常に居心地のいい場所なのだ。

このように、イギリスの食文化に触れる体裁をとりながらも、そこからイギリス人気質や文化に思いを馳せるのが本書の

柔道グランドスラム・パリ大会

小野・緒方が優勝

福見は惜しくも3位

柔道

柔道冬季欧州遠征が、1月31日―2月21日にかけ欧州各地で行われた。

グランドスラム・パリ大会には、本学から5人が出場。小野卓志（体育2年）が90キロ級、緒方亜香里（体専2年）が78キロ級で優勝。福見友子（当時体育2年）が48キロ級、栗野靖浩（体専4年）が73キロ級で3位に入った。

小野の決勝の相手は昨年の世界選手権で敗れているチョリエフ（ウズベキスタン）。「相手が大技を狙ってくることが分かっていた」と話す小野は試合開始直後、相手の油断しているところを豪快な内股を決め一本勝ち。

小野は、「動きが良かったと思う。世界選手権で敗れている相手なので絶対勝ちたかった」と振り返った。

緒方は準決勝まで終始攻めの柔を貫き決勝に進んだ。相手は世界ランク1位の選手を下し、決勝に勝ち進んできたライバルの穴井さやか（ミキハウス）。「相手に寝技で挑むことが多かったので、立ち技を意識した」と緒方。終始自分のペースで試合を進め、最後は小外掛で一本勝ちをおさめた。緒方は、初の世界選手権出場に向け「まだ若いが、今しかないと思って臨みたい」と話した。

小野卓志

緒方亜香里

増地克之監督（体育・講師）は「全体として少し雑なところがある。7月の最終選考会に向け改善すべきところを意識して練習に臨んでほしい」と評価した。

◇

冬季欧州遠征の一環であり、世界ランキング制で中規模クラスの大会に位置付けられているグランプリ・デッサセルドルフ、ウィーン、ブダペスト）が開催され、本学からは福見ら6人が出場。グランプリ・デッサセルドルフの48キロ級で福見、ワールドカップ・ウィーン大会の90キロ級で西山希（体専2年）が優勝。トビリシ大会の66キロ級で森下純平（体専2年）、ブダペスト大会の48キロ級で伊部尚子（当時体専4年）が3位に入った。

グランドスラム・パリ大会では準決勝で敗れている福見。決勝の相手は1月の大会で一本負けをしている浅尺八瑠奈（山梨学院大）。「負けたくないという気持ちが強かった」と福見。前回の反省から、相手に攻め入る隙を与えない柔道を心掛けた。試合は延長戦にもつれ込んだが、延長戦突入後まもなく相手に二つ目の指導が与えられ、優勢勝ちをおさめた。

福見は「少し戦術的な柔道に走りすぎていたかもしれない。これからは投げて勝つ柔道を心掛けたい」と今回の欧州遠征を振り返った。

全国大学対抗サッカーフェスティバル

全国の大学が集う

J2チームとの交流戦も

サッカー

第24回全国大学対抗つくばサッカーフェスティバルが、3月15―23日に開催された。今年は本学含め27大学46チームが参加し、本学の第一・第二サッカー場と多目的グランドで全95試合が行われた。今年のテーマは「前にすスマイル」。選手たちが技術的に進歩することと同時に、イベントに関わる全ての人が笑顔になれることが目標だ。

獨協大と競り合う筑波ドリームス（右）

本学からは現役選手に加え、4年生チームの筑波ドリームスや、社会人と合わせてのチームがエントリーした。17日にはJ2のクラブチームである水戸ホーリーホックが会場を訪れ、筑波大学Aチームと交流戦を行った。

サッカーフェスティバルはもともと、本学のOBが指導者となっているチームの交流の場を設けようとしたのが始まりだ。現在は、雪によってコートが使えないという悩みを抱える大学に、合宿や試合をする機会を提供することもこのイベントの大きな目的である。

このイベントは、本学の蹴球部が主体となって開催・運営している。開催の告知や他大学への連絡、試合の組み合わせから宿泊先の手配まで、実行委員会の学生が行った。また、つくばスポーツ宿泊連合の宿泊地の提供、スポンサー企業のドリンクの無料配布、関東サッカー協会からの審判員の参加など、多くの団体が協力して進められた。

実行委員長の紅林新大さん（社工4年）は「つくばに集まった全ての人たちが、このイベントを通して価値のある経験をし、共有することが出来れば」と話した。

ジャパンオープン

本学勢5位が最高

水泳

今シーズン最初の全国大会、ジャパンオープン（日本短水路選手権）が、2月27、28日、東京辰巳国際水泳場（東京・江東区）で行われた。本学からは、18人の選手が出場した。

若月哲也（体専3年）が200メートル平泳ぎで5位、石田義樹（体専3年）が100メートル個人メドレーで5位、佐藤咲季（体専2年）が50メートルバタフライで7位、小林拓也（体専4年）が50メートル自由形で8位、植木拓斗（体専4年）が200メートル個人メドレーで8位という成績を収めた。

昨年のジャパンオープンでは、2種目で3位に入賞し、本学の活躍が光ったが、今大会は5位が最高位。武田剛ヘッドコーチ（体育センター準研究員）は「今は上位をねらえる選手が少なく、想定内の結果だが、やはり最高位5位は寂しい」とした。今大会は高速水着が禁止されたが、「うちの選手は多くの自己ベストを出した」と武田ヘッドコーチは評価した。

V・チャレンジリーグ

新チーム後、初のリーグ戦

善戦も昇格かなわず

バレー

国内バレーボールの頂点に立つV・プレミアリーグの下部リーグ、V・チャレンジリーグが、1月9日―3月21日にかけて、つくばカピオ（つくば市竹園）などで開催された。本学OBで元日本代表の加藤陽一選手が昨年から加入し、波に乗る男子バレーボールチーム「つくばユナイテッドサンガイアは、プレミアリーグへの昇格をかけて善戦したが、3位に終わった。

今年で4年目の参戦となるサンガイアは、レギュラーラウンドを9勝1敗の2位で通過し、上位チームの順位決定戦に臨んだ。

そして迎えたファイナルリーグ最終戦、先月20日に行われたホームゲーム1日目の相手は、レギュラーラウンド5位の東京ヴェルディ。第1セット、サンガイアは3連続得点で先制、試合の流れをつかんだかのように思われたが、ヴェルディが4―5と逆転。その後、サンガイアも反撃し得点を稼ぐも、点差を広げることが出来ず、結局23―25と第1セットを奪われた。

続く第2セットは、両チームが競り合う展開となった。サンガイアはなかなか得点を挙げることができず苦しむが、25―22と辛くも逃げ切った。

第3セットは、接戦の末にサンガイアが25―23で奪取。勝利をかけた第4セットではサンガイアが終始リード、25―17と大差をつけてセットを奪った。結果、サンガイアがセットカウント3―1でヴェルディを下した。

2日目の最終戦では、全勝してレギュラーラウンドを1位で通過したジェイテクトSTINGSと対戦。サンガイアは第1セットを19―25で、第2セットをデュースの末に29―31で落とす

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本学には、全部で9つの学群と、23の学類があります。どの学群・学類も、輝く個性を持っています。ここでは各学群・学類の先輩に、普段は知ることの出来ない、それぞれの学類の素顔を教えてもらいましょう。

人文

人文学類へようこそ！なにかにつけて筑波大学の先陣を切られる人文ですが、その割に他学類に何をするところなのかよく知られていません。友人の專攻もちょっとわからないという場合も。寂しいけどこれ現実。人文生の專攻は、歴史の学問・史学、言葉の学問・言語学、思索の学問・哲学、そして文化の学問・民俗考古学の4つ。それから日本史、倫理学……などときらに細分化され、その多種多様さは筑波大学随一です。ここなら君たちのやりたいことがきっと見つかるはず。自分なりの学生生活を満喫してください。

比文

「比文」こと比較文化学類は「文学」「地域」「思想」という3つの専攻分野から成り立っています。それぞれ研究している内容こそ異なるものの、三者に共通して言えるのは「自らの関心のある対象を、自らの学びたいように、自由に研究している」ということです。比文では既定概念にとらわれることなく、自由で豊かな発想のもと、さまざまな文化へアプローチを図ることが出来ます。学問において本当に何でもアリで、まさに「自由」を絵に描いたような学類です。

日日

日本語・日本文化学類、略して日日（にちにち）です。他学類の人には日日？と言われてしまうこともある若干認知度の低い学類です。ですが、学んでいる内容は、"日本"や"日本語"についてなどに限らず、異文化理解や国際交流についてなど、なかなかアクティブなこともしています。具体的には……いずれわかります。また、学類としての特徴として全体の人数が少ないこともあり学類内での仲が良いです。新学期のスタートぜひがんばってみてください。

社学

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。我々社会学類は法、政治、社会、経済とさまざまな分野を学ぶことができる素敵な学類です。先生も素晴らしい方が多く、非常にやりがいがあります。また、みんな男女問わず仲が良く、お互い勉強、スポーツ、遊びと切磋琢磨する日々を送っています。そして社学と言えば欠かせないのがお酒。いつかお酒を片手に卒業論文を書く日が来るかもしれません。そんな社学で一緒に充実した大学生活を送りましょう！

国総

新生のみなさん入学おめでとうございます。国際総合学類は世界について考える学類です。大さっぱに世界といっても政治、経済、法学、環境、情報……そのかかわり方はまさに十人十色です。さまざまな分野の授業が充実しています。

また、国際は先輩・後輩関係なく仲が良く、明るく元気な学類なので、他の学類の方も授業をとるなど関わってみてはいかがでしょうか。

教育

教育学類は前身の東京教育大学なども含めると100年以上の歴史を持っており、本学の中で最も伝統のある学類の一つです。教育学類といっても、全ての人が教師を目指しているわけではなく研究者を目指す人もおり、「教育」を幅広く学べる学類です。教育に関心のある人が集まる学類ということもあり、教育学類にはリーダーシップがあり明るく元気で尚且つ、優しい人が多いです。人間生は是非、教育の先輩と仲良くなって筑波ライフを一緒に楽しみましょう。

障害

障害科学類では、多岐にわたる障害について、教育・心理・福祉などの様々な視点から学ぶことが出来ます。1年次では、障害科学の基礎を学び、2年次以降は障害科学・特別支援教育学・社会福祉学の3つの履修モデルにわかれ、専門性を高めていき、特別支援学校の免許や社会福祉士国家試験受験資格を取得することができます。温厚な先生が多く、他大学では学ぶことのできないユニークな学問についてみんなで仲良く学ぶことができるのが障害科学類です。

心理

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。心理学類では、実験・教育・発達・社会・臨床心理学と、心理学の各分野を網羅するほどたくさんの領域を扱います。筑波大は他大学に比べ、日本トップクラスの教員数を誇り、1年生から心理統計や方法論など、専門的知識を学べます。また、心理学類も属する人間学群は、教育・障害科学類と共に、アットホームな雰囲気です。

生物

新入生の皆さんこんにちは。「生物学類って何をやるの？」と思う生物もしくは他学類の1年生の方、僕ら生物学類は日夜生命の奥に潜む真理を勉強しています。そして（いい意味で）みんな「真面目！」ってわけでもなく、気さくに話し合えるけれどそこには礼儀もあるというような学類です。ひとつ言いたいのは、生物学類は特に教職を取る人が鬼の時間割（2学期の週の空きは2つ……）なので、ヤド祭などの仕事あまり任せないであげてください。

生資

「生物資源って何やってるの？」という質問はよくありますね。今回はその質問に見事答えてしまいます。単刀直入にいうと……資源は地球を守っています。生物資源には4つのコース、環境工学・応用生命化学・農林生物・社会経済があります。この4つの全く違う観点から地球をどう守ろうかと考えるのが生物資源の役割です。経済的な方面にも進むのの特徴ですね。

また、話は全くはずれますが、生物資源は有事にアツイ学類です。楽しいイベントには資源ありということで紹介を終わります。

地球

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

地球には、「地球環境学」と「地球進化学」の2つの主専攻があり、地球の内部で起こっている現象から地球の外側にある太陽系まで幅広い知識を身に付けることが出来ます。また、地球での勉強は学内に留まらず、野外に調査をしに行くことも多いのが特色です。

そして、何と言っても地球学類は仲の良さが有名です。学生同士はもちろん、先生方とも仲がとても良いので楽しい大学生活が送れると思います。

数学

数学類では4つの分野―代数・幾何・解析・情報数学―があります。これらの分野はそれぞれに「美しさ」があり、3年次にそれぞれの分野に分かれます。その基礎として1年次では必須の微積分や線形代数、分野選択の補助となる数学特別個意義などを履修します。2年次では更にそのレベルまで到達できるよう日々勉強しています。先生方も熱心な方ばかりです。授業の数、レポートの数が多くても気にしない！頑張れる！だって化学が好きだから!!それが化学類です（例外有）。

化学

化学は、電子、原子、分子レベルで物質の構造、性質および化学反応のメカニズムなどを実験的・理論的に解明する学問です。私たち化学類は解明ができるレベルまで到達できるよう日々勉強しています。先生方も熱心な方ばかりです。授業の数、レポートの数が多くても気にしない！頑張れる！だって化学が好きだから!!それが化学類です（例外有）。

物理

みなさんご入学おめでとうございます。「充分に発達した科学技術は、魔法と見分けがつかない」という言葉があります。つまり魔法を使うための勉強（修行）で物理学類生は魔法使いの弟子だと考えると、オラワクワクしてきたぞ。どうでもいいですね。たぶん最初のベクトル解析で盛大に転ぶと思いますが、がんばってください。1年経つとGrad、Div、Rotと友達になれます。

応用理工

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。私たち、応用理工学類は何をするのかというと、ある科学現象を工学に応用するというのがメインテーマです。そのために、1、2年で物理や化学を学び、3年次以降でそれを応用していきます。また、工学に応用するといってもミクロな立場（小さな現象）から応用していきます。そんな、応用理工でミクロな工学について学んでいきましょう。

エシス

私たちの学類は、広く深い工学知識を持つ人材を育てることを目標にしています。また、その学習内容は、情報、機械、電気、建築など多岐に渡ります。ここで何を学ぶかはあなた次第。エシスでの4年間があなたの夢を実現するための有意義な時間となることを願っています。

社工

社会工学類では、複雑に絡み合う社会現象を多様な学問分野から分析し、工学的に解決するためのシステムをデザインする方法を学びます。主專攻分野は社会経済システム、経営工学及び都市計画の3つから構成されており、自分の興味、関心に合わせ多分野の勉強を出来るのが特徴です。

期待とともにさまざまな不安を抱えていることと思いますが、困ったときには私たち上級生が全力でバックアップします。ともに大学生活を充実したものにしていきましょう。

情科

情報科学類とは、情報学群にして唯一第3エリアで活動し、コンピュータに関連する幅広い分野の技術や知識を習得する学類です（プログラミング、マシン構築、画像・音声認識など）。第3エリアは学食が美味です。

そして情報科学類は全学用のPCではなく学類専用のPC室を3部屋持っています！（他は社工とエシスのみ）24時間365日快適です。

PCで困った時は知り合いの情報科学類生に聞いてみよう！（ハード上げ）

情報創成

情報メディア創成は、情報伝達・表現としてのコンテンツの製作技術から、コンテンツを流通・展開するためのネットワークで結びついたメディア環境について学ぶための学類です。

さまざまなメディア創成のため、人間や社会、文化、芸術など様々な側面から総合的に取り組んでいます。いろいろと自由に動き回れるので見ていろいろな事に挑戦してみてください。先生方の研究室を訪問する学生も多いです。そして、1人ひとり将来に対する気持ちが強いので話をしていて刺激になります。さらに、病院実習は看護学生にとって刺激的なものになるはずです。

知識図書

「春日……図情ですか？」こんにちは、旧図書館情報専門学群と間違われやすい知識情報・図書館学類、略して知識です。知識って何を勉強しているの？とよく聞かれます。知識と情報と図書館について勉強しています。半分嘘で半分本当です。本学から自転車で15分の南の果て、春日キャンパスで数学やプログラミング、哲学などいろいろ学んでいます。ちなみにお隣の情報メディア創成学類とはたぶん仲良しです。

医学

こんにちは♪皆さんは医学と言ったらどのような印象を持ってますか？カタい、まじめ、そんな感じでしょうか。でも筑波医学は違うんですよねー。マジでノリのいい集団です。しかも筑波の医学はスポーツも盛んです。医学の大会の中では日本一に輝いた部活も数多くあります。でもやっぱり医学。勉強するときはしっかり（？）やります。そんなこんなでにぎやかな筑波大学医学類でめっちゃ楽しい大学生活を送ろう♪

看護

私たち看護学類は、1学年70名程度と人数が少ない分、全員と仲良くなることができます。看護学生は積極性、行動力そして思いやりの心にあふれています。さまざまなボランティアへの参加、1年生のうちから先生方の研究室を訪問する学生も多いです。そして、1人ひとり将来に対する気持ちが強いので話をしていて刺激になります。さらに、病院実習は看護学生にとって刺激的なものになるはずです。

医療

医療科学類は臨床検査技師や研究者の育成を中心とする学類で、人数は40人程度と他の学類に比べ少なく、クラスも2クラスしかありません。が、少ないクラス関係なく仲が良く、みんなほとんど同じ授業に勉強出来る環境が私は大好きです。部活をしてる人や勉強をしてる人などそれぞれ目標は違いますが、みんな一生懸命です。

また専門知識に優れた教授方の授業は面白いものが多く、学ぶ教室がきれいなのも良いところだと思います。

体専

みなさんご入学おめでとうございます。筑波大体育専門学群の良いところはなんといってもみんな元気がいいところだと思います。そんな元気をあり余した仲間とともに汗を流したり、見据えきちんとした考えを持っているので、ここで医療について学ぶ仲間とはお互いに刺激になり、高めあっていけるでしょう。

芸専

芸術専門学群（以下 芸専）には、芸術学、美術、構成、デザインの4つの專攻があります。芸專は絵画だけでなく、立体作品や、映像、グラフィックデザインなど、すべての芸術表現を日々追い求めています。また、芸專は多くの学生が各自作業用スペースを持っているために、一つの棟すべてが学生のために開放されています。そのため、芸專は学年を超えた交流が盛んで、いつもにぎやかです。こんな芸術棟に一度来てみませんか。

出るので団結力も強いです。テスト前になればきっと誰かから助けてくれることでしょう！他力本願はいけませんが。

また一人ひとりが将来を

入学おめでとう

学類紹介

9学群23学類

世界の教室から

キルギス国立大学（キルギス）

松下　聖

二言語を同時に操る面白さ

「父さん、今度おれ、キルギスに行くからね」「え？キリギリス？」一そんな会話が交わされていたのは、もう一年以上も前のこと。2009年4月1日、私は留学のため中央アジアのキルギス共和国へと旅立ちました。キルギスは1991年にソ連から独立し、中央アジアの大国・カザフスタンや中国と国境を接する、人口500万人余りの小さな国です。

私はそのキルギスで数多の体験をしてきたのですが、中でも一番衝撃的だったのが「二言語併用生活」です。キルギスでは「国家語」のキルギス語と「公用語」のロシア語の二言語が主に話されており、首都ビシュケクに住んでいるキルギス人の多くは、両言語を使うバイリンガルです。そして私は、ホームステイをしながらこの二言語を同時に学習していきました。はじめはロシア語会話だけでも手一杯でしたが、徐々にキルギス語も覚えてくると、バイリンガル社会のおかしな、そしておもしろい実相を垣間見ることになりました。

まず気付いたのは、会話のなかで頻繁に言語が変わることです。誰もが二言語を併用するのが当たり前となっているキルギスでは、キルギス語で始まった会話がいつの間にかロシア語に変わっていたり、年長者にはキルギス語で、若者にはロシア語で話しかけたり、という場面はざらです。日本には、日本語と奇妙な英語を混ぜて話すル一大柴さんがいますが、まったく次元が違います。なにしろ、みんなウケ狙いではなく、自然に二言語で話してしまうのですから。

それから、キルギス人の中には、「母語」のキルギス語よりもロシア語のほうが上手く喋れる、という人が少なからずいます。なので、キルギス語で話しかけられたのにロシア語で返答する、なんて場面も日常的にあるのです。ちなみに、宴席やけんかで感情が高まると、そのミックス度がさらに増すようで、聞いていて頭が混乱しそうになることもしばしば。

私も帰国する頃には両言語を混ぜて話すことが多くなり「お前も立派なキルギス人になったな」と言われました。このような言語状況の良し悪しはさておき、一筋縄ではいかない言語の奥深さを肌身で感じられたのは、何物にも代え難い良い経験だったと思います。ありがとう、キルギス！

（人文4年）

キルギスの湖をバックにポーズ

つくばエコシティ推進グループ賞

牧瀬さん（総）に最優秀賞

本学生の環境意識高める

「つくばエコシティ推進グループ賞2009」（筑波大学つくば・地域連携推進室　つくばエコシティ推進グループ主催）の表彰式が先月17日に2H101教室で行われた。

昨年に引き続き2年目となる「つくばエコシティ推進グループ賞」は、環境負荷を低減させるための企画や提案を個人や団体から募集している。特に優れたものについては、実現にかかる費用を大学が支援する。今年は全部で6件の応募があり、このうち、牧瀬翔麻さん（国総・2年）の企画「筑波大学環境上計画」が最優秀賞に選ばれた。

牧瀬さんの企画は、本学に新たに「環境向上委員会（仮）」を設立し、自動販売機数の削減や紙コップのデポジット制（預かり金制）などの導入を進めるというもの。サークルでは活動に限界があることから、大学の公認組織とし、学生主体の環境活動を行うのが特徴だ。将来的には、各学群・学類から構成員を選出する組織を目指す。

既存の大学公認組織には環境対策に取り組む団体がないことや、本学生の環境問題に対する意識を高めたいという思いから本企画を提案した。牧瀬さんは「最優秀賞に選ばれ、責任の重さを実感している。まずは既存の環境系サークルのメンバーを集め、組織の土台を固めたい」と今後の抱負を述べた。

つくばエコシティ推進グループ賞は、今年も企画や提案の募集・表彰を行う。2010年度の企画募集は、今年の10月頃からを予定している。

最優秀賞を受賞した牧瀬さん（前列左から2番目）

コインランドリー設置

試験運用はおおむね好評

有料化への不満も

かねてから設置が検討されていたコインランドリーが平砂、追越、一ノ矢、春日の各学生宿舎に導入され、今月から有料運用が始まった。

株式会社ファミリーが大学の委託を受けて運営し、洗濯と乾燥（30分）それぞれ1回につき100円かかる。有料化に伴う学生の負担増加に対し、共益費を月500円減額することで負担軽減を図るという。

先月行われた無料の試験運用では「洗濯、乾燥の時間が短くなった」や「壊れた時にすぐに修理に来てくれる」など、学生の反応はおおむね好評だったが、部活動などで洗濯、乾燥を多く行う学生を中心に有料化への不満は依然強い。経済的に苦しい学生や留学生への配慮が足りない、乾燥機の台数が少ないなどの意見も多い。平砂宿舎に住む男子学生は「乾燥までの時間が短くなったのでありがたい。ただ、30分では乾かないので、乾燥に200円かかってしまうのが辛い」と話した。

◇

先月15日、一ノ矢宿舎34号棟でコインランドリーの電源ケーブルが切断される事件が発生した。犯人はわかっていないが、大学は犯罪行為に当たるとして事態を重く見ている。

平成21年度卒業式

2375人飛び立つ

最高齢院生も修了

平成21年度の学類・専門学群と理療科教員養成施設の卒業式が、3月25日に大学会館講堂で行われた。小雨の降りしきるなか、学群・学類生2375人、理療科教員養成施設から21人が巣立ちの日を迎えた。

山田信博学長は「失敗や変化を恐れず新しい世界に挑戦し、その中から学び、感謝し、問題を解決し、未来を開拓してほしい」と卒業生にエールを贈った。

卒業生代表の西原周子さん（当時比文4年）は「本学で得た主体的に思考する力をいかし、社会に貢献していきたい」と述べた。

また、開学以来最高齢の大学院生、幡谷祐一さんが86歳で生命環境科学研究科博士課程後期を修了した。86歳での博士号取得は珍しい記録。

幡谷さんは茨城県信用組合理事長を務める傍ら本学でバイオディーゼル燃料の研究を行った。環境負荷削減活動の指針を作り出すことをねらい、廃食用油を再利用したバイオ燃料を公共バスなどの自動車で使用、それによる二酸化炭素の削減量を数値化した。

研究の思い出について、「若い学生に手伝ってもらったこともあった。若い人のエネルギーが体にしみ込んでよかった」と話す。

幡谷さんは修了後も、バイオ燃料が自動車に与える影響を研究するという。

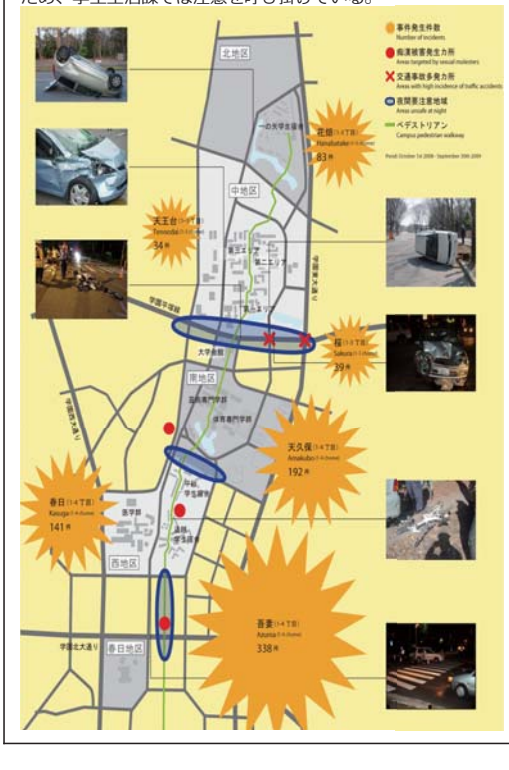
取材に応じる幡谷さん（左）と奥様

ハザードマップ

筑波大学に潜む危険

新入生に配布されるほか、食堂のテーブルなどに置かれるハザードマップ。学内での危険な場所が一目で分かり、学生たちの危機意識を喚起している。

警察署からのデータ協力の下、学生生活課が原案を作成。昨年と比べて恐喝や暴行事件が増加。バイクの盗難も増えているため、学生生活課では注意を呼び掛けている。



学生論壇

社会への声

『アバター』の説得力

昨年末に公開され爆発的なヒットとなった『アバター』は、〝3D新時代〟の総決算をなすものと言えるだろう。そもそも本作の監督であるジェームズ・キャメロンは、まずは小作品で3D技術を試すつもりだったらしい。しかし、今は亡き特殊効果の巨匠スタン・ウィンストンに「いや、だめだ。長編で作品を撮るなら、君にとっての『スター・ウォーズ』みたいな、最大かつ最高の映画でやれ」と反対されたという。かくして生まれたアバターは世界興行記録を更新し、スピルバーグをして「スター・ウォーズ以来最高のSF」と言わしめたわけである。

私は機会に恵まれ、この映画を劇場で3回鑑賞することができた。ストーリーは2分間の予告編で推測できる通りで、言い方は悪いが全く目新しいものではない。しかし、それでいいのだと思う。善悪のはっきり分かれた構図。主人公のヒーローぶり。タフで魅力的な、悪役の存在。みな、ハリウッドが昔から得意としてきたアクション映画の約束事である。アバターに何らかの社会的なメッセージを見る解釈もあるようだが、この素晴らしき「おバカ」映画は娯楽作以外の何物でもない。ただ、その徹底のされ方が項点を極めており、また、映画として必要な「説得力」も持っていた。ゆえに作品そのものが高く評価され、アカデミー賞にも主要部門でノミネートされたのだろう。

先ほど「説得力」と書いたが、私が思うにそれは、観客を映像に引き込む力である。後から考えれば「んっ？」と思う箇所があるかもしれない。が、少なくともリアルタイムで映画を見ている時は、そのような疑問を観客に持たせない。持たせたとしても、それさえも映画を楽しませる効果に変えてしまう。なぜ映画が映画になるかと言えば、映画でしか伝えられないことを、このような説得力をもって観客に伝えるからに他ならない。

アバターはその意味でまさに「映画」であった。3Dでの体験も、確かに劇場でしかできないもの。しかし、特殊効果や視覚効果と同様に、それは作品を効果的に見せるための、一つのツールでしかない。この作品は多くの「今までの」映画と同様に、その説得力で、世界の興行と評価を勝ちとったのだろう。

（映画研究部・猪熊隼人＝国総3年）

青山七恵さんら卒業生招く

比文講演会

「表現」への思い語る

芥川賞作家の青山七恵さん（平成16年度図書館情報専門学群卒）と、写真評論家でキノコ文学研究家の飯沢耕太郎さん（昭和59年度芸術学研究科修了）を招いた比較文化学類主催の講演会「文学と写真的思考」が2月10日に2C401教室で行われた。教室は熱心に話を聞く人々の姿であふれた。

青山さんの小説『かけら』の中で写真が題材に使われたことから、写真の存在が芸術作品の中でどのような役割を果たすか、といった話題を皮切りに、2人の作品の内容に触れながら「表現」への思いを語り合った。

写真や文学の偶然性・必然性について青山さんは「今は情報量の豊かな時代。物語やストーリーのパターンは数多く刷り込まれている。私が書くのは、何千通りのパターンが化学反応を起こして生まれてくるもの。偶然の産物です」と語った。飯沢さんは、「写真を撮る時はからっぽ。撮ってから考えて、構築する。偶然の中から、必然を見出してゆく」と話した。

キノコに関係するあらゆる作品を収集する、キノコ文学研究家という肩書きを持つ飯沢さんは「今、キノコ文学がきてると思うんですよ」とキノコ文学への熱い思いを語り、会場の笑いを誘う場面もあった。

講演の中では質疑応答の時間がとられた。「オリジナリティについてどう思うか」という質問に飯沢さんは「オリジナリティは作るものではなく、自然に現れてくるもの」、青山さんは「人は文字を覚えた時点で何かしら既存のものの影響を受けてしまう。しかし、生きるうえでその人にしか経験し得ないことがあり、その人にしか作れないものが出来るのではと答えた。

講演を聞きに来ていた古畑侑亮さん（人文2年）は「写真と小説の相違点や共通点を知れてよかった」と話した。また、木下奏さん（知識図書2年）は「芸術には感性が必要なのだということを感じたと語った。

つくばスカラシップ

本学独自の奨学金創設

3種の給付型柱に

本学はグローバル30（国際化拠点整備事業）の開始及び世界的な経済不況を受け、独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」を昨年10月から創設している。

この奨学金の柱は、留学生への経済支援、学生への海外留学支援、緊急時の学資支援の3つ。いずれも給付型のため、返済の義務はない。支給額と定員は表の通り。

これらの奨学金のうち、短期海外研修支援と緊急支援以外は他の奨学金との併用が出来ないので注意が必要。なお、申請方法などの詳細については本学ホームページで見ることが出来る。問い合わせ＝留学生支援／国際部留学生交流課留学生支援係029・853・6086、海外留学支援／同課海外留学係029・853・6067、緊急支援／学生部学生生活課経済支援係029・853・2562

①留学生支援
- 学群生：月額6万円（定員10名程度）
- 院生：月額8万円（定員20名程度）
- 英語コース入学者
  - 1種、総額90万円（定員6名程度）
  - 2種、総額58万円（定員9名程度）
  - ＊1種2種は入学者選抜の成績などに応じて決定

②海外留学支援
- 交換留学：月額8万円（定員12名程度）
- 短期海外研修：上限10万円（研修費用に応じて支給）
  1人1回。（定員12名程度）

③緊急支援
20万円、1人1回。（定員50名程度）

つくばバスマップ

バス定期

学生	4200円
教職員	8400円

※学内の丸善で販売

路線バスの特定区間を自由に乗り降りできる学内交通システムの定期券が、学内構成員向けに販売されている。

今年度の有効期限は、4月1日から来年の3月31日まで。学内の丸善で学生4200円、教職員は8400円で販売され、1年を通じ価格に変動はない。

定期券は、学生証や職員証にシールを貼って使用する。運行時間は、朝6時の始発から午後11時の最終バスまでとし、10分間隔で1時間に6本のダイヤを組んでいる。

常総100km徒歩の旅

学生スタッフ募集

「常総100km徒歩の旅2010」が、8月3～7日にかけつくば市などで行われる。同団体では、本番に向けて学生スタッフを4月30日まで募集している。

本事業は、小学校4～6年生までの子どもたちが、学生スタッフらと100kmを4泊5日かけ歩くという研修事業。常総地域での開催は今年で4回目。

学生スタッフは本番までに研修を重ねることで、リーダーシップを身に付け、自分自身が成長出来る。スタッフは本学の他にも明治大、青山学院大などさまざまな大学から参加しており、他大学との交流も可能だ。また、本番では筑波山など茨城県南の各地を回るため、地域に関わりを持つことが出来る。

今年で3回目の参加となる学生スタッフの室垣奈津未さん（国総4年）は「スタッフは色々な思いを持って活動しているので、一度ミーティングに来て欲しい」と話す。問い合わせ＝josa100km2010@yahoo.co.jp

地球にやさしい作文・活動報告コンテスト

池松さん（生資）が内閣総理大臣賞

自然への思い作文に

読売新聞社本社＝東京・千代田区＝主催の「2009地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」で、池松俊哉さん（生資4年）が内閣総理大臣賞を受賞した。

このコンテストは環境問題に対する関心や意識を高めることを目的に1991年に創設。環境保護に対する意見や提案、実践活動の報告、ポスターなどを募集している。小学生から一般まで幅広い層から毎年多くの募集が見られ、今年は約1万3000点が寄せられた。内閣総理大臣賞は、全部門の全作品で最も優れた1作品に贈られる。

池松さんは、「蘇れ！里山の自然」と題した作文で、中学1年生からジュニアナチュラリストとして続けている生態調査や里山の手入れのことを述べた。木々の間伐や「サンショウウオの産卵期に合わせて、ビオトープ（人工的に作った生物の生息場所）の設置などを行った苦労や成果、自然への強い思いを詰めた作品だ。

受賞に対し「受賞は驚きで、声を上げて喜んだ。これまでの活動が認められた気がして嬉しい」と語った。

優秀学生顕彰事業

本学生が奨励賞受賞

デザインや環境活動評価

平成21年度優秀学生顕彰事業において越野結夏子さん（当時芸専4年）と山本泰弘さん（当時国総4年）が昨年12月12日、日本学生支援機構の、社会貢献分野と文化芸術分野でそれぞれ奨励賞を受賞した。

この賞は、独立行政法人日本学生支援機構が、学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献の各分野において優れた業績を挙げた学生を奨励・支援するもので、全国で92名が選ばれた。

越野さんはキッズデザインプロスペクティブコンペティション2008・最優秀賞など、ものづくりやデザインでの功績が認められた。山本さんは大学に関わる多様な人を結びつけ環境サークル「3eカフェ」及び「3R+1Eco Cycle」などの環境活動の実現に貢献してきたことが評価された。

山本さんは「受賞者は自分だがそれぞれの事業を引き継ぎ発展させてきた仲間の栄誉。後輩にはこれを励みに『持続的発展』を目指してもらいたい」と述べた。

Sheep

人をつなぐジャグリング

あくまで採点は tanbō

時ににぎやかに和気あいあいと、時に静かに黙々と、教室のあちこちでクラブ（ホウリングのピンの形をした道具）やボールが用に舞う。ジャグリングサークル「Sheep」では、部員が和やかに、かつ真剣に練習を繰り返し、全体の質を高めて行く。

「Sheep」の部員は現在26名で、活動日は毎週月・木曜日。部員が3A202教室に集まると、一人ひとりが自由に散らばり、自分に必要な練習を行う。各自で分からないことや見てもらいたいことがあれば仲間と歓談、疲れたらテーブルで休憩する。「サークルでは皆が自由に練習する。コツは誰かから教わるが、それをつかむのは自分。ジャグリングの練習は常に自分との戦いでもある」と、石山麻友美さん（情報創成2年）は話す。

手に持った道具を空中へ投げてキャッチするトスジャグリング、道具を体の上で転がすコンタクトジャグリング、棒や紐を振り回すスイングジャグリングなど、おのおのが得意とする分野はさまざまだ。代表の西村貴皓さん（生物3年）は、5本のクラブで華麗にトスジャグリングした後、ディアボロ（中国コマ）を回転させて投げ上げキャッチしてみせた。

教室の外でも練習をしている。昼休みや放課後、本学の石の広場でジャグリングをする事もある。

また、4月の新歓の時期や5月のやどかり祭、10月の雙峰祭などのイベントに参加し、日頃の練習の成果を披露する。

サークルの公演の会場は学内に留まらない。市内の幼稚園や小学校、老人ホームからしばしば出張公演の依頼が来るという。依頼を受けたら、打ち合わせをして会場に赴き、観衆の前でジャグリングを行う。自分たちの経験を積むと同時に、地域での交流を深めることもこのサークルの目標だ。奥山久佳さん（応理2年）は「大学の中だけに閉じこもらず、外で披露する機会がもらえるのが嬉しいと話す。

活動の場を外に移した時、外国の方が興味を示して近づいて来てくれることがよくあるという。石の広場での練習でも、話しかけて来るのは留学生の方が多い。また、雙峰祭ではバルーンアートで動物を作って配ったところ、小さな子どもにとても喜んでもらえたという。「ジャグリングは外国の方や子どもたちとも楽しさを共有出来る。これから先、外国の人たちとの交流の場をもっと広めていけたら」と小山優さん（生資2年）は話す。

ジャグリングは誰かに見てもらい、喜んでもらうもの。練習は常に自分との戦いだが、その先にあるのは大勢の人との交流である。言葉は重要ではなく、国籍や年齢も関係ない。国際化が進む本学、ひいてはこの日本の中で、ジャグリングを続ける彼らの活躍の場はますます増えていくことだろう。（本紙・野口尚喜＝人文学類）

健康診断

指定日にもれなく

2010年度の学生健康診断が4月13―23日に行われる。指定された日時に、学群新入生は大学会館3階ホールに、2年生以上は2階ホワイエに集まる。研究生、特別聴講生、特別研究学生、科目等履修生は、それぞれが所属する研究科・学類の指定された日時に受診。指定日に受診出来ない場合は、期間中に受診する。前日までに各支援室で検尿容器を受け取っておく。

受付時間は午前の部が9時―10時、午後の部が1時―2時半。受付の際は当日朝に採尿した容器と学生証を持参してX線撮影用の無地のTシャツを持参、または着用する。問い合わせは保健管理センター。詳しい日程は各エリア掲示板や「Students」参照。

第36回やどかり祭

模擬店募集20日まで

第36回やどかり祭（宿舎祭）が5月28、29日に開催される。毎年恒例の各学群対抗ゆかたコンテストや御輿パレードなどに加え、新企画の男祭りと世界3分の1選手権を行う。今年度は開催場所が平砂6、7号棟裏、平砂共用棟、ピクニックコートに変更される。

宿舎祭実行委員会では、模擬店の参加団体を募集している。募集期間は4月13―20日で平砂、追越、一ノ矢、春日の各共用棟で申込用紙の配布、回収を行う。また、ゆかコンは15、16日、御輿は23日にそれぞれ説明会があり、その際に募集も行われる。

Who's Who?

居酒屋紹介サイト「ツクのみ」技術責任者

三上　俊輔 さん（CS 1年）

自宅のパソコン前、「仕事は主にここで」と語る

熱い仲間とメルマガ配信

人の喜び世界につながる

「えー飲み代が安くなる!?」今や筑波大生の1000人以上が登録している「ツクのみ」をあなたはご存じだろうか。「ツクのみ」とは本学周辺にある居酒屋に特化したモバイルクーポンサイトの略称だ。メルマガで店の割引などの特典がついた、クーポンを配信している。飲み代が高いと普段感じている学生に「便利で使いやすい」と好評だ。このメルマガ配信システムを作ったのが三上俊輔さん（CS1年）だ。

4年前情報学類に入学した三上さん。パソコンには興味があったものの具体的に何がしたいか、当初は定かではなかった。ただ、「人のためになる、サイトを立ちあげよう」という漠然とした考えはあったが、行動には移しきれなかった。だが、ある一冊の本と二人の人物との出会いが転機となる。

2年生の冬「ウェブ進化論」という、Google の成り立ちや、検索エンジンのすごさについて書かれた書籍を手にした。Googleが当初、広告収入なしにサイトを立ち上げ、現在の成功へ発展したことに驚いた。

三上さんは、赤字覚悟でも人に必要とされ、役立つサイトを作るという志に、「自分がしたいことはこういうことだ」と自覚めた。

そして、3年生の夏。以前からSNSで「この人はおもしろい」と思っていた米満直樹さん（平成21年度国際総合学類卒）を三上さんの知人が紹介してくれた。

米満さんは、ツクのみの運営会社インプルを起こした人物。会社を運営するにあたり、三上さんの存在が必要だ」と熱心にアプローチをかけた。「俊（三上さん）は立ち上げ期から一緒になることは分かっている。お互いの意見にぶれは生じても、人に役立ちたい熱意は変わらない。

米満さんからはツクのみのシステム管理を任された。自身のモットーに「自分がいなければ世界に起こらない事を成す」を掲げる三上さん。じかに実践的なシステムに触れ、知識のなさを思い知ったという。一からメルマガ登録システムなどに関する勉強を始めた。「どれくらい本気で、作ろうとしたかで物の出来は決まる。要は努力次第」と笑顔で振り返る。

今月からは、インプルで新しくバイト紹介サイト「ツクのバイト」を立ち上げ、学生と店舗の両者に利益を生む働きを目指す。「これがあったら、いいのになぁと思えることをしていきたい」と意気込む。

目標は海外でも通用するウェブサイトを作ること。「自分より技術の高い人は多いが、志を同じくする仲間と、一緒にやっていきたい」と話した。身近なつくばから世界はグーぐるっと広がっていく。（本紙・扇本剛司＝社会工学類）

◆ツクのみ＝http://tsukunomi.com

父兄にも本紙配布

紫峰会を通じて

本学の学生後援会紫峰会は、同会員に対する本紙配布を決定した。紫峰会では昨年10月に試行的に本紙を同会員に送付して、配布希望のアンケートを行ったところ、「筑波大学新聞」の認知度は高く、掲載記事に興味があり、また、同会会報誌「紫峰会報」送付時に同封を希望する者は約90％にのぼった。このため、紫峰会では年5回発行（4月、7月、9月、12月及び2月）している「紫峰会報」とともに本紙を同会員に送付することとした。問い合わせ＝029・852・3572　ホームページ＝http://www.shihoukai.gr.jp/

本紙配布場所一覧

筑波大学の動きがよく分かる、公式の学内広報紙、筑波大学新聞（無料）。毎月（長期休暇中は除く）第2週に発行。本紙の学生用学内配布場所は以下の通り▽各学群・学類の学生用掲示板前＝1C棟2階、2B棟2階、3B棟2階、4A棟2階、5C棟2階（体バチ前）▽図情支援室＝春日地区7A棟2階▽宿舎管理事務室前＝追越共用棟2階、平砂共用棟2階▽UTショップ前＝大学会館2階▽大学会館前書籍部2階カウンター＝横

編集後記

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。つくばの桜の歓迎はもう受けましたか？一歩前に踏み出して、自由な大学生活を楽しんでくださいね。そうそう、本紙では新入記者を大募集中。君も「筑波おろし」を書いたM君に会いに編集室へ遊びに来ませんか？編集部一同待ってます（編集長・光安素子＝人文3年）

次号は **5月10日(月)** 発行予定です

筑波自然図鑑

◇フキ◇

撮影地＝宝篋山（ほうきょうさん）

日本全国各地の丘や川沿い、山の沢などで群生する雌雄異株の多年草。北は樺太から中国や朝鮮半島にも分布。フキは地下茎を持ち、早春、葉の茎が伸びる前に地面からフキノトウだけが独立して地上に出てくる。つぼみの状態で採集して、てんぷらなどに調理される。他にもみそ汁、煮物、フキノトウみそなどにして食卓をかざる。朝、うっすら降り積もった雪の合間からフキノトウの花がのぞかせていると春の気配を感じさせてくれる。（写真・文＝大高颯平、エンス3年、野生動物研究会）

催事

劇

◆筑波小劇場春公演

4月28、29日に1E棟学生控え室。入場無料。28日午後7時、29日は午後1時と午後5時から。テーマは「星座線」。星座のような人と人とのつながりを描く。ホームページ＝http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~tsukusyo/

筑波大学新聞モニター募集

本紙では、年間を通じて紙面の感想やご意見、ご要望をお寄せいただくモニターを募集します。

お問い合わせ＝shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

筑波大学出版会

好評発売中！

山崩れ・地すべりの力学
地形プロセス学入門
松倉公憲　著
日本地理学会賞（優秀賞）受賞

山崩れや地すべりが起こるメカニズムを通して地形の形成過程をやさしく解説した、日本では最初の系統的な入門書。基本的な知識・概念や数式の説明、段階的な解説、実際の解析例の提示といった、教科書や自習書に適したきめ細かい工夫がされており、学界からも実業界からも注目されている。地球科学を専攻する学生のみならず、砂防や土木、地盤災害の関係者にとっても必携。著者は本年3月末に筑波大学教授を定年退職。税込2625円。

大学会館書籍部ベストセラー

1	22年度試験完全対応　公務員試験　速攻の時事	実務教育出版
2	これが本当のテストセンターだ！　2011年度版	洋泉社
3	ロスト・シンボル　上	ダン・ブラウン/角川書店
4	朝日キーワード2011	朝日新聞社
5	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦/角川文庫
6	ロスト・シンボル　下	ダン・ブラウン/角川書店
7	日本辺境論	内田樹/新潮新書
8	もういちど読む山川日本史	山川出版社
9	日本の近現代史をどう見るか	岩波新書
10	速読速聴・英単語Core1900	Z会

今月の第1位は実務教育出版の「22年度版完全対応　公務員試験速攻の時事」。公務員を目指す学生必携の書となる。

3位と6位にはダン・ブラウンの「ロスト・シンボル上・下」。ワシントンDCで繰り広げられるハード・サスペンス劇。

新学期の辞書フェア開催。今月12日から5月31日に共立出版理工書15％オフフェア。